

第5節 落とし穴について

落とし穴概論

土坑の一用途として、落とし穴（陥穴）説が提唱されている根拠を以下に挙げる。

- 1、埋土が自然堆積の様相を示し、人為的に埋められていない。
- 2、分布のありかたが特定地域に集中せず、広い範囲にまばらに散在しており、墓坑、貯蔵穴、住居などのありかたと異なる。近くに同じ時期の集落遺跡が存在しない。
- 3、長軸の方向が地形と強い相関関係を示し、けもの道の方向に従って作られたとすると、その方向性がよく説明できる。
- 4、底部の施設が落とし穴の機能を高めるためのしかけの跡と考えると理解できる。
- 5、類例が丘陵地帯に多く発見されている。（注1）

これは1970～71年にかけて神奈川県横浜市緑区霧ヶ丘遺跡の調査で大々的に検出された土坑群の性格解明の際に打ち出された説である。（注2）以後、同種の遺構が全国でも多数検出されるようになり、土坑を落とし穴とする解釈は広く浸透した。

一方で、これらを落とし穴とする見解を否定する意見もある。否定論の論拠は、土坑が食料資源となりうる猪・鹿を対象にしたものであるなら小さすぎる、浅すぎるというものである。しかし、否定論の立場から落とし穴に替わる積極的な土坑の性格、利用法は提示されていない。

民俗例をみると、直径2～3m、深さ2～3m前後のすり鉢状及び逆すり鉢状の形態のものが関東、三河～南信濃、比婆などに存在したことが知られている（注3）。また世界を見渡せば、アフリカの狩猟民族が底面に罟を仕掛けた直径1.5～2m、深さ2mほどの落とし穴を列にして利用している例などがあるという（注4）。

今回調査した5遺跡のうち、小町越城野原第2遺跡は遺跡のほぼ全域を土坑のみが占めるものであった。ここでは、小町越城野原第2遺跡の土坑群を上記の項目1、2、4、5に当てはまるものとし、落とし穴と判断した上でその具体像に迫ってみたい。

小町越城野原第2遺跡の落とし穴

小町越城野原第2遺跡では、総計25基の土坑を検出した。これらは上述のとおり、その立地や構造から狩猟に使われた落とし穴と考えられる。遺跡のほぼ全域にわたって落とし穴は分布している。

平面形は円形・楕円形・隅丸長方形・長方形等である。

規模をみると、検出面での大きさは100cm前後であり、深さは100～150cmのものが19基と大半を占めている。しかし、中には150cmを超える深いもの（SK-8、12、16）も存在する。なお、調査前の地形および地山までの土の堆積状況をみた限りにおいて、調査区は削平・攪乱を受けていないと思われる。このことから、落とし穴の深さも、使用当時のものと大きな差異はないものと考えられる。

埋土

埋土については、主に黒灰褐色土系の土層からなるものと、それよりもやや色のうすい暗茶灰褐色土系の土層よりなるものの2種類に大別でき、これらは数の上でもほぼ同数を示す。

底面の施設

底面の施設については、SK-16を除く全てのものが底面ピットを備えていた。多少の差異はあるが、径20cm前後、深さ40cm前後のものが顕著である。また、SK-7では、落とし穴底面に直接獲物殺傷用の杭を打ち込んだ痕跡と考えられる4つの小ピットを検出した。SK-2、25の底面ピットからは礫を検出している。これは底面ピット内に杭を立てる際に固定材の役目を果たしたものと考えられる。また特殊なものとしては、底面の壁際周

囲に浅い溝をめぐらせたSK-3が挙げられる。溝の用途は不明である。

考 察

小町越城野原第2遺跡周辺には、越敷山遺跡群、小町越城野原第1遺跡、小町第1遺跡などが存在し、中でも小町第1遺跡、越敷山遺跡群は多数の落とし穴が検出された狩猟場跡である。前年度調査を行った小町第1遺跡では、①比較的浅く、黒灰褐色土系の埋土で、底面ピットを持つもの ②深く、暗茶灰褐色土系の埋土で、底面ピットを持たないもの という大まかな分類を行い、2つのタイプの落とし穴の切り合い関係から①は②より新しく両者の間にはかなりの時間差が存在し、また落とし穴の深さと底面の構造は相関して変化していったという仮説を立ててみた。(注5)

しかし、小町越城野原第2遺跡の落とし穴は、深さに関係なく底面ピットを備えている。小町第1遺跡調査後の考察では、切り合いにより古いものと判断できた深く底面ピットのない落とし穴から浅く底面ピットを持つ落とし穴へと移行・変化した可能性を示唆した。また、その理由として、底面に施設を設ける構造のものが定着し対象動物を確実に捕らえられるようになったために、掘削労力を要する深い落とし穴が必要ではなくなったのではないかと考えた。しかし、小町越城野原第2遺跡では200cmを越える深さの落とし穴も底面ピットを持っており、ここでは先のような落とし穴の深さと底面ピットの有無の相関関係は見られない。身長以上の深さがあり人間一人が入れば身動きもとれないほど狭い落とし穴の底辺に、一体どうやって底面ピットを掘り罾を仕掛けたのか、またなぜこんな深い落とし穴にまで仕掛けを作らねばならなかったのか、疑問が残る。

埋土に関しては、深さ150cmを越えるSK-8、20が暗茶灰褐色土系の土層からなっており、とりわけSK-20の検出面の土色は25基中もっとも淡いものであった。深さ100~150cmの落とし穴を黒灰褐色土系埋土のものと同暗茶灰褐色土系の埋土のものに分類し、それぞれの深さの平均値を出したところ、黒灰褐色土系落とし穴の深さ平均値は116.0cm、暗茶灰褐色土系のものの平均値は131.1cmであった。はっきりとした分類が出来るほどの明確さはないが、ここでも深い落とし穴に暗茶灰褐色土系の埋土、比較的浅い落とし穴に黒灰褐色土系の埋土という傾向がうかがわれる。(ただし、SK-14のように深さ150cmで黒灰褐色土系埋土というものも存在した。)

時 期

埋土の下層中に少なからず炭化木片を含んでいる落とし穴が存在した。SK-6、17、18、19、22などがそれである。炭化木片は落とし穴に立てられた杭の痕跡というよりは埋没時に流入したものと考えられる。埋土下層中にまんべんなく分布しており、最大でも一片5cmに満たない程度のものであった。この内、SK-18出土の炭化木片を放射性炭素年代測定法(^{14}C)で分析したところ、 $3130 \pm 210 \text{ B. P.}$ という値を得た。炭化木は落とし穴最下層出土であることから、この落とし穴の利用または廃棄直後の年代をほぼ示すものと考えられる。SK-18は当遺跡で普遍的な形態を示すものであり、放射性炭素年代測定の結果に従えば、小町越城野原第2遺跡の落とし穴は縄文時代後期~晩期のものであるといえよう。

鳥取県内の落とし穴 (研究略史と現況)

鳥取県において広く落とし穴の存在が知られるようになったのは青木遺跡(米子市)の発掘調査以来のことであろう。住宅団地造成に伴い1971年から始まった調査の結果、228基におよぶ落とし穴が確認された。

これらは当初その用途がわからずに「貯蔵穴状土坑」と称され、農耕用の穴・退避壕・便所・墓・水溜用穴等諸説が論じられてきたが、神奈川県霧ヶ丘遺跡の発掘調査報告書の中で同形態のものが「陥穴」と解釈されていることからほぼこれに間違いないと判断され、以後「落とし穴」として定着したものである。

青木遺跡の落とし穴は約8割が底面ピットを持つもので、深さ100~200cm前後、底面ピットの径20~30cm、その深さ20~50cm、埋土は黒褐色土系である。底面ピットを持たないものも深さは100~200cm前後で、埋土は黄褐色土系であった。この内D地区のDSK46よりサヌカイト製スクレーパーが出土しており、また落とし穴の埋土と同じ黒灰色土中から穴を掘る際使用したと考えられる打製石斧数点が検出され、これらの資料より落とし穴が作られた時期は縄文時代後~晩期と推定された。(注6)

その後、県内の各地で落とし穴検出例は増加の一途をたどることとなる。

東部では八頭郡家町の万大寺遺跡で53基、中部では東伯郡東伯町の森藤第1・第2遺跡で32基、東伯郡赤碓町の化粧川遺跡で47基、西部では西伯郡中山町の八重第3遺跡で29基とまとまった数の落とし穴が検出された。

1991年に調査が行われた倉吉市中尾遺跡でも84基の落とし穴が確認された。ここでは青木遺跡でみられたような底面ピットを持つものの他に、直接杭を落とし穴の底面に立てた痕跡と考えられる小ピットを持つものが26基検出されている。直径15cm前後の杭を1本、あるいは直径4～8cm程度の杭を数本打ち込んだと考えられるものが顕著であるが、底面の杭の本数および配置はかなりバラエティーに富む。鳥取県内においても、様々なタイプの底面施設をもつ落とし穴が1遺跡に同居することがこの調査で初めて明らかになった。同形態のものは近接して作られ、それを結ぶライン上にけもの道が存在したのではないかという検討もなされている。時期については、落とし穴より出土した炭化物を放射性炭素年代測定法(^{14}C)で調べた結果、落とし穴18号出土のものが4160 B. C. \pm 120、59号が3760 B. C. \pm 170、67号が5860 B. C. \pm 260という値を示した。報告書ではこれをふまえた上、出土遺物等から「積極的に解釈するならば、ほとんどの落とし穴は縄文時代前期を中心に造られたものと推定される」としながらも、晩期までは数基ずつ造られた可能性をも示唆している。(注7)

1989年にはゴルフ場建設工事に伴う西伯郡会見町越敷山遺跡群の発掘調査が行われ、87,000m²におよぶ広大な調査地から341基もの落とし穴が検出された。この遺跡の落とし穴は底面ピットを持つものと持たないものとに大別できるが、報告者はそれらを形式分類した上で、その配置とけもの道の在り方の関係を考察している。ここでは埋土の異なる落とし穴2基の重複も見られ、灰色系埋土で底面ピットを持たないものが黒褐色土系埋土で底面ピットを持つものに切られていた。この前後関係から、黒色埋土系の落とし穴は灰色埋土系のものより新しいものと判断され、また底面ピットをもつ形態のものが多いためはこのタイプが発達した型式であるからだろうと推測している。(注8)

1992、93年に調査が行われた米子市尾高御建山遺跡からは69基の落とし穴が検出された。落とし穴は、A・底面ピットを持つもの、B・杭痕跡を持つもの、C・底面に何の施設も持たないものの3タイプに分類され、詳細な底部施設の観察が行われている。中でも興味深いのは、礫や粘質土が底面ピットの周囲にめぐらされたものが多数確認されたことで、杭の固定方法に一步踏み込んだ報告がなされている。また、落とし穴底面に直接数本の杭を突き刺したと考えられるものについて、底面の地山土が底面ピットを持つ落とし穴の床面に比べやわらかい傾向にあることも指摘している。なお、SK-77出土の炭化木の ^{14}C 年代測定でB. P. 3250 \pm 25という結果が出ており、尾高御建山遺跡の落とし穴は縄文時代後～晩期のものと推察された。(注9)

その後、近年多数の落とし穴が確認されているのは、西伯郡淀江町の百塚遺跡群近辺(百塚第5・第7・第8遺跡ほか)、西伯郡岸本町小町から坂長にかけての日野川左岸地域(小町第1遺跡・小町越城野原第2遺跡・坂長宮田ノ上遺跡ほか)である。これらの落とし穴の形態は、底面ピットを持つもの、杭痕跡を持つもの、底面ピットを持たないものに大きく3分類できる。また各遺跡における落とし穴の在り方もそれぞれ報告書の中で検討されており、データは揃いつつある。しかし、いまだにその形態の差異を具体的に説明づける資料はなく、時期についても出土遺物がほとんどないために炭化木の ^{14}C 年代測定から推察するにとどまっており、不明な点も多く残されている。現状では県東部での落とし穴発見例は少なく県西部地域に偏る傾向にあるが、今後、発掘調査が増えるに連れ、東部地域でも検出例が増加することは予想される。今後の良好な資料の増加を待って、改めて検討を行いたい。

(注1) 今村啓爾 1988 「土坑性格論」『論争・学説 日本の考古学 2. 先土器縄文時代I』P245～246

雄山閣出版

(注2) 今村啓爾 1973 「霧ヶ丘遺跡の土壌群に関する考察」『霧ヶ丘』P131～159

霧ヶ丘遺跡調査団

(注3) 宮本常一 1973 「陥穴」

『霧ヶ丘』P181～185

霧ヶ丘遺跡調査団

(注4) 今村啓爾 1983 「陥穴(おとし穴)」『縄文文化の研究 2』P154～157

雄山閣出版

(注5) 参考文献18

(注6) 参考文献1

(注7) 参考文献67

(注8) 参考文献24

(注9) 参考文献2

遺構名	処理番号	挿図番号	図版番号	グリッド	平面図	検出面 (cm)			底面 (cm)		底面ピット (cm)		備考
						長袖	短軸	深さ	長軸	短軸	径	深さ	
SK-1	SK-1	113	46	A 2	長方形	100	56	137	88	52	16	40	
2	5	113		A4~B4	不定形	90	64	134	73	62	14	28	礫1個
3	6	114	47	A 5	隅丸長方形	128	90	89	106	60	20	60	底面に溝有り
4	7	114	47	A 5	隅丸長方形	129	106	124	88	66	30	49	
5	8	115		A 5	円形	126	110	126	84	70	30	56	
6	9	115		A5~B5	円形	110	106	142	66	58	22	33	
7	10	116	47	A 6	楕円形	114	94	108	87	63	※7	※33	杭痕跡4個
8	11	116	47	A 6	楕円形	125	71	174	59	40	11	16	
9	12	117		- 7	隅丸長方形	134	80	124	102	52	16	38	
10	13	117		A 5	隅丸長方形	120	95	108	86	43	25	40	
11	14	118		A 9	隅丸長方形	152	102	142	112	57	22	47	
12	15	119	48	A 9	隅丸長方形	142	91	226	63	49	14	26	
13	16	118		B 7	隅丸長方形	140	118	136	116	76	24	42	
14	17	120		B 8	楕円形	130	100	150	92	55	26	50	
15	18	119		B 9	隅丸長方形	130	94	126	86	60	28	28	
16	20	120		A 7	隅丸長方形	115	70	174	72	40	なし	なし	底面Pなし
17	23	121		A 10	楕円形	140	125	138	90	73	24	45	
18	24	121	48	A 10	楕円形	120	105	106	96	66	28	46	
19	26	122		B 10	円形	110	104	145	76	72	25	30	
20	28	122		A 14	隅丸長方形	136	108	156	64	26	16	24	
21	31	123		B 12	隅丸長方形	98	68	110	104	48	25	38	
22	32	123		A 14	楕円形	110	85	126	106	60	21	41	
23	33	124		B 14	不定形	102	90	116	116	70	20	40	
24	34	124		B 12	楕円形	110	92	121	68	55	20	18	
25	35	125		A 8	楕円形	85	80	112	81	55	25	54	

表1 小町越城野原第2遺跡 土坑一覧表

表2 鳥取県内土坑一覧表

番号	遺跡名	所在地	土坑数	底面ピット有り	杭痕跡有り	底面ピットなし	備考	文献番号
1	青木	米子市	228	185		43		1
2	尾高御建山	〃	69	59	5	6		2・3
3	東宗像	〃	10	10				4
4	泉中峰・泉前田	〃	21	11	1	9		5
5	泉上経前	〃	3	2		1		6
6	樋ノ口第3	〃	9	8		1		7
7	樋ノ口地区	〃	3	3				8
8	成ヶ谷西(諏訪1号墓下層)	〃	2	2				9
9	別所1号墳下層	〃	2	1		1		11
10	諏訪遺跡群中原地区	〃	1	1				8
11	諏訪遺跡群新田地区	〃	4	4				8
12	福市吉塚地区	〃	2	2				8
13	喜多原第2	〃	2	2				11
14	上福万妻神	〃	1			1		12
15	奥谷掘越谷	〃	8	3		5		13
16	新山山田	〃	9	7		2		52
17	吉谷トコ	〃	10	1		9		54
18	三部野	溝口町	2	1	1			14
19	清水谷	西伯町	11	10		1		15
20	林ヶ原	岸本町	10	5		5		16
21	久古第1	〃	2	1		1		2
22	大寺原	〃	5	5				17
23	小町第1	〃	26	13	3	10		18
24	小町越城野原第1	〃	5	3		2		60
25	小町越城野原第2	〃	25	23	1	1		60
26	坂中第5	〃	9	7		2		60
27	坂長宮田ノ上	〃	17	15		2		60
28	百塚第1	淀江町	2	2				19
29	百塚第4	〃	20	8		12		20
30	百塚第4(II-C区)	〃	4	4				50
31	百塚第5	〃	66	31	2	33		6
32	百塚第7(8区)	〃	54	27	16	11		21
33	百塚第7(3区)	〃	15	4		11		51
34	百塚第8	〃	60	38		22		50
35	小波林ノ奥	〃	15	7		8		55
36	小波狭間谷	〃	3	2		1		6

番号	遺跡名	所在地	土坑数	底面ピット有り	杭痕跡有り	底面ピットなし	備考	文献番号
37	井手挾	淀江町	1	1				22
38	大下畑	〃	2	2				23
39	越敷山遺跡群	会見町	341	265		76		24
40	天王原	〃	25	9		16		56
41	田住滝山	〃	9	8		1		57
42	田住松尾平	〃	44	27	22	17	杭痕跡は「木槍痕」と報告	58
43	鶴田東山	〃	3	2		1		49
44	鶴田合清水	〃	1			1		49
45	鶴田荒神ノ峰	〃	10	9		1		53
46	鶴田堤ヶ谷	会見町・溝口町	1	1				53
47	勝負勝負の峰	名和町	3	1		2		25
48	茶畑第2	〃	1		1			26
49	八重第3	中山町	29	25	1	3		27
50	小松谷	〃	4	2		2		28
51	化粧川	赤崎町	47	13		34		29
52	森藤第1・第2	東伯町	32	16		16		30
53	大峰	〃	16	8		8		31
54	大畑	〃	26	18		8		32
55	水溜り・賀籠捨場	〃	4			4		33
56	森藤第3	〃	5	2		3		33
57	青木第4	大栄町	9	8	1			34
58	大谷11号墳下層	〃	2	2				35
59	横峰	関金町	3			3		36
60	大山池横峰地区	〃	1	1				37
61	大山	倉吉市	4	1	1	2		38
62	イキス	〃	3	2		1		39
63	大山峰	〃	1	1				40
64	頭根後谷	〃	4	3		1		41
65	後口野1号墳	〃	2	1		1		42
66	立道東古墳群	〃	6	5		1		43
67	中尾	〃	84	31	26	5		44
68	長谷	〃	57	28	6	23		45
69	大日寺遺跡群	〃	1	1				46
70	丸山	三朝町	7	1		6		47
71	山宮笹尾	気高町	12	2		10		59
72	万代寺	郡家町	53				内訳不明	48

<参考文献> (文献番号は表1「鳥取県内落し穴一覧表」と対応)

- ・稲田孝司 1993 「西日本の縄文時代落し穴」『論苑 考古学』 天山舎
- ・今村啓爾 1983 「陥穴(おとし穴)」『縄文文化の研究 2』 雄山閣出版
- ・今村啓爾 1973 「霧ヶ丘遺跡の土壌群に関する考察」『霧ヶ丘』 霧ヶ丘遺跡調査団
- ・石川和明 1973 「土壌群についての考察」『霧ヶ丘』 霧ヶ丘遺跡調査団
- ・宮本常一 1973 「陥穴」『霧ヶ丘』 霧ヶ丘遺跡調査団
- ・今村啓爾 1988 「土坑性格論」『論争・学説 日本の考古学 2.先土器・縄文時代I』 雄山閣出版
- ・今村啓爾 1987 「狩人の系譜」『日本の古代10 山人の生業』 中央公論社
- 1 『青木遺跡発掘調査報告書』I～III 1976～1978 鳥取県教育委員会
- 2 『尾高御建山遺跡・尾高古墳群』 1994 財団法人鳥取県教育文化財団
- 3 『尾高御建山遺跡II・尾高古墳群II・尾高1号横穴墓』 1995 財団法人鳥取県教育文化財団
- 4 『東宗像遺蹟』 1985 財団法人鳥取県教育文化財団
- 5 『泉中峰・泉前田遺跡』 1994 財団法人鳥取県教育文化財団
- 6 『百塚第5遺跡・小波狭間谷遺跡・泉上経前遺跡』 1995 財団法人鳥取県教育文化財団
- 7 『諏訪遺跡群発掘調査報告書I』 1981 米子市教育委員会
- 8 『諏訪遺跡群発掘調査報告書II』 1982 米子市教育委員会
- 9 『諏訪遺跡群発掘調査報告書III』 1982 米子市教育委員会
- 10 『諏訪遺跡群発掘調査報告書IV』 1983 米子市教育委員会
- 11 『喜多原第2遺跡発掘調査報告書』 1987 米子市教育委員会・喜多原遺跡発掘調査団
- 12 『上福万妻神遺跡』 1991 米子市教育委員会
- 13 『奥谷掘越谷遺跡』 1992 米子市教育委員会
- 14 『三部野遺跡発掘調査報告書』 1990 溝口町教育委員会
- 15 『清水谷遺跡』 1992 西伯町教育委員会
- 16 『久古第3遺跡・貝田原遺跡・林ヶ原遺跡発掘調査報告書』 1984 財団法人鳥取県教育文化財団
- 17 『大寺原遺跡発掘調査報告書』 1981 岸本町教育委員会
- 18 『小町第1遺跡』 1996 財団法人鳥取県教育文化財団
- 19 『百塚第1遺跡』 1989 淀江町教育委員会
- 20 『百塚古墳群発掘調査報告書I』 1992 淀江町教育委員会
- 21 『百塚第7遺跡(8区)』 1995 財団法人鳥取県教育文化財団
- 22 『井手挾遺跡発掘調査報告書』 1987 淀江町教育委員会
- 23 『大下畑遺跡』 1994 財団法人鳥取県教育文化財団
- 24 『越敷山遺跡群』 1992 会見町教育委員会・岸本町教育委員会
- 25 『大山山麓遺跡群調査報告書』3 1978 鳥取県教育委員会
- 26 『茶畑第2遺跡発掘調査報告書』 1990 名和町教育委員会
- 27 『八重第3遺跡発掘調査報告書』 1987 中山町教育委員会
- 28 『小松谷遺跡』 1975 中山町教育委員会
- 29 『化粧川遺跡発掘調査報告書』 1989 赤崎町教育委員会
- 30 『森藤第1・森藤第2遺跡発掘調査報告書』 1987 東伯町教育委員会
- 31 『大峰遺跡発掘調査報告書』 1985 東伯町教育委員会
- 32 『大畑遺跡発掘調査報告書』 1989 東伯町教育委員会
- 33 『水溜り・賀籠捨場遺跡 森藤第3遺跡発掘調査報告書』 1988 東伯町教育委員会
- 34 『青木第4遺跡発掘調査報告書』 1980 大栄町教育委員会

35 『大谷11号墳発掘調査報告書』	1990	大栄町教育委員会
36 『横峰遺跡発掘調査報告書』	1986	関金町教育委員会
37 『大山池遺跡横峰地区（落し穴）発掘調査報告書』	1989	関金町教育委員会
38 『大山遺跡発掘調査報告書（C・D区）』	1989	倉吉市教育委員会
39 『イキス遺跡発掘調査報告書』	1989	倉吉市教育委員会
40 『大仙峰遺跡発掘調査報告書』	1990	倉吉市教育委員会
41 『頭根後谷遺跡発掘調査報告書』	1991	倉吉市教育委員会
42 『後口野1号墳発掘調査報告書』	1991	倉吉市教育委員会
43 『立道東古墳群発掘調査報告書』	1993	倉吉市教育委員会
44 『中尾遺跡発掘調査報告書』	1992	倉吉市教育委員会
45 『長谷遺跡発掘調査報告書』	1992	倉吉市教育委員会
46 『大日寺遺跡群発掘調査報告書』	1993	倉吉市教育委員会
47 『丸山遺跡発掘調査報告書』	1984	三朝町教育委員会・花園大学考古学研究室
48 『万代寺遺跡発掘調査報告書』	1983	郡家町教育委員会
49 『鶴田東山遺跡・鶴田合清水遺跡』	1995	財団法人鳥取県教育文化財団
50 『百塚遺跡群II』	1993	淀江町教育委員会
51 『百塚遺跡群V』	1996	淀江町教育委員会
52 『新山山田遺跡（6区）調査概報』	1996	米子市教育文化事業団
53 『鶴田荒神ノ峰遺跡・鶴田堤ヶ谷遺跡・宇代横平遺跡・宇代寺中遺跡』	1996	財団法人鳥取県教育文化財団
54 『吉谷トコ遺跡』	1994	米子市教育文化事業団
55 『百塚遺跡群III』	1993	淀江町教育委員会
56 『天王原遺跡発掘調査報告書』	1993	会見町教育委員会
57 『田住滝山遺跡発掘調査報告書』	1995	会見町教育委員会
58 『田住松尾平遺跡発掘調査報告書』	1996	会見町教育委員会
59 『逢坂地域遺跡群発掘調査報告書 山宮阿弥陀森遺跡・山宮茶山畑遺跡・山宮笹尾遺跡』	1987	気高町教育委員会
60 『坂長宮田ノ上遺跡・坂中第5遺跡・坂長佛谷遺跡・小町越城野原第1遺跡・小町越城野原第2遺跡』	1997	財団法人鳥取県教育文化財団

写真図版

坂長宮田ノ上遺跡



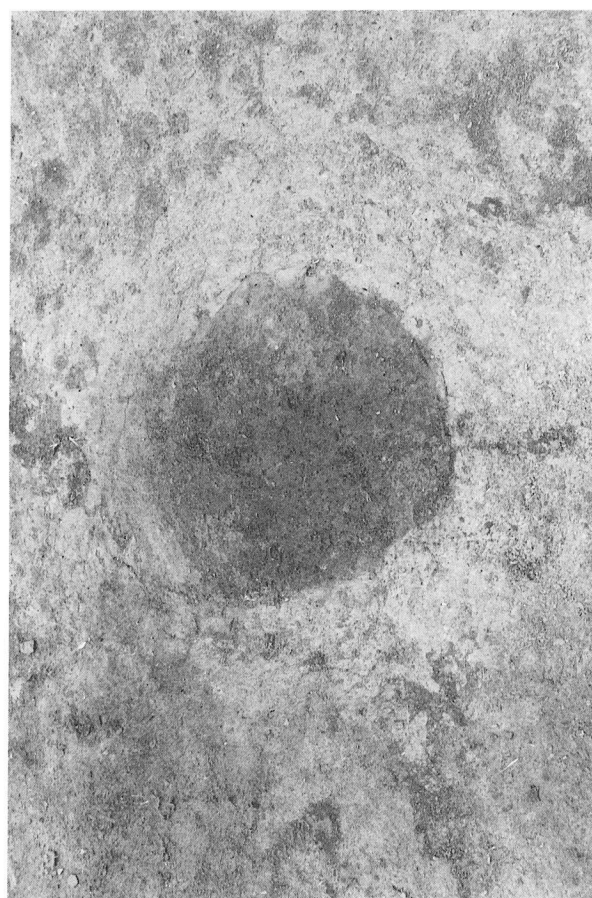
SK-1 完掘状況 (東から)



SK-2 土層断面 (東から)



坂長宮田ノ上遺跡 調査前 (東から)



SK-2 検出状況 (東から)

図版 2



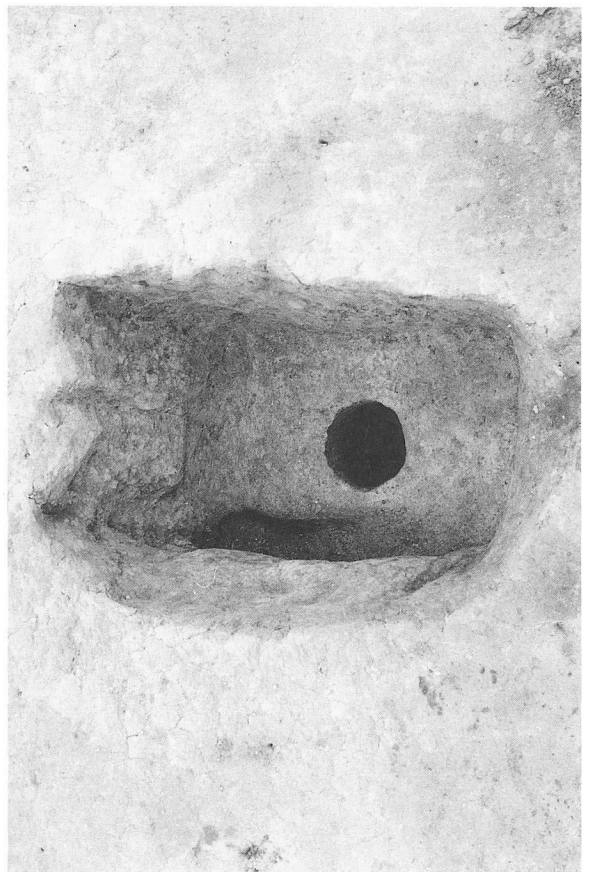
SK-3 完掘状況 (東から)



SK-5 完掘状況 (東から)



SK-2 完掘状況 (南から)



SK-4 完掘状況 (東から)



S K - 6 底面ピット内礫出土状況 (東から)



S K - 7 底面ピット内礫出土状況 (東から)

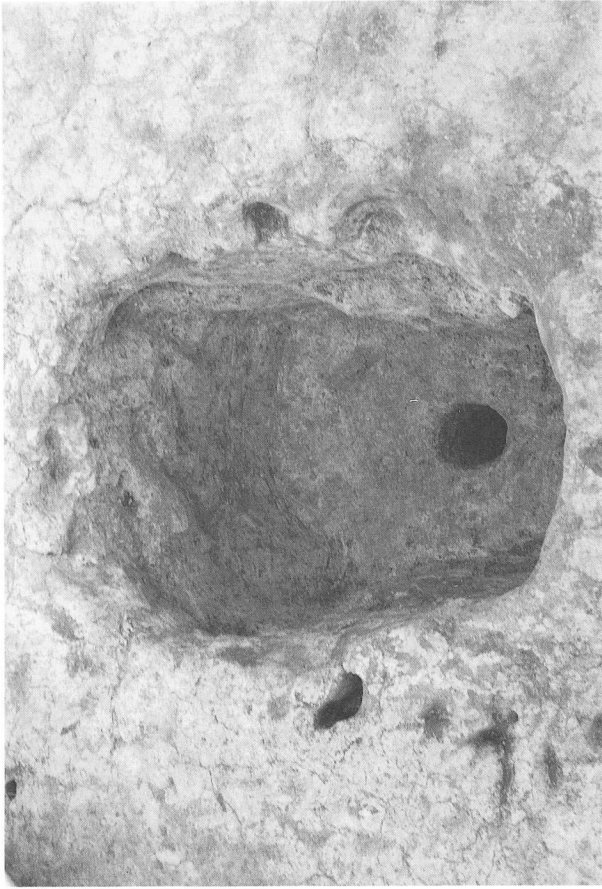


S K - 6 完掘状況 (東から)



S K - 7 完掘状況 (北から)

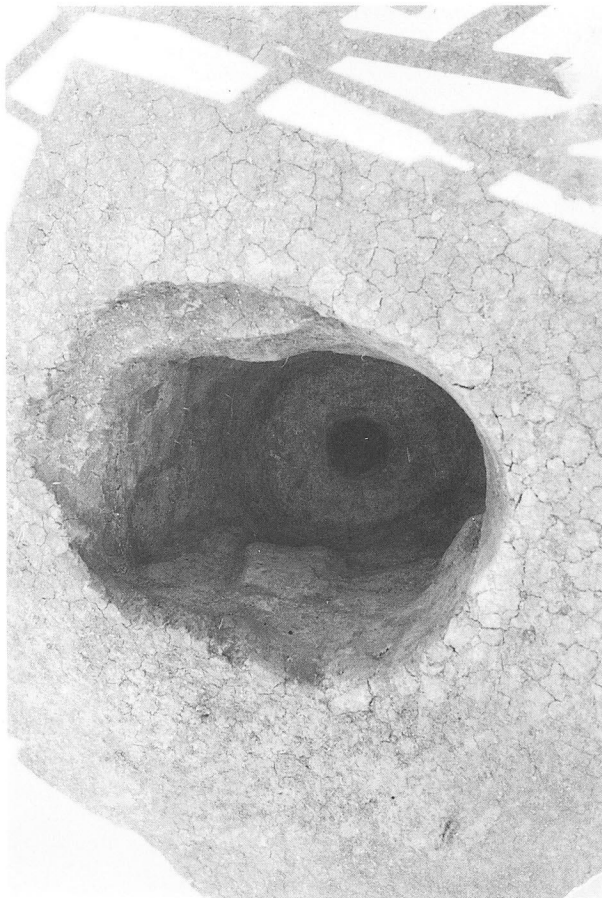
図版 4



SK-9 完掘状況 (西から)



SK-11 完掘状況 (南から)



SK-8 完掘状況 (南から)



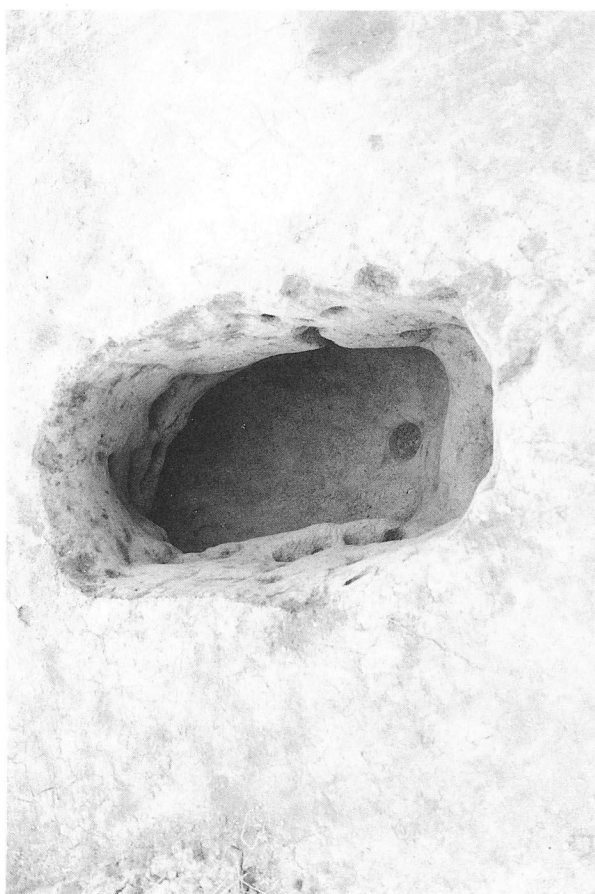
SK-10 完掘状況 (東から)



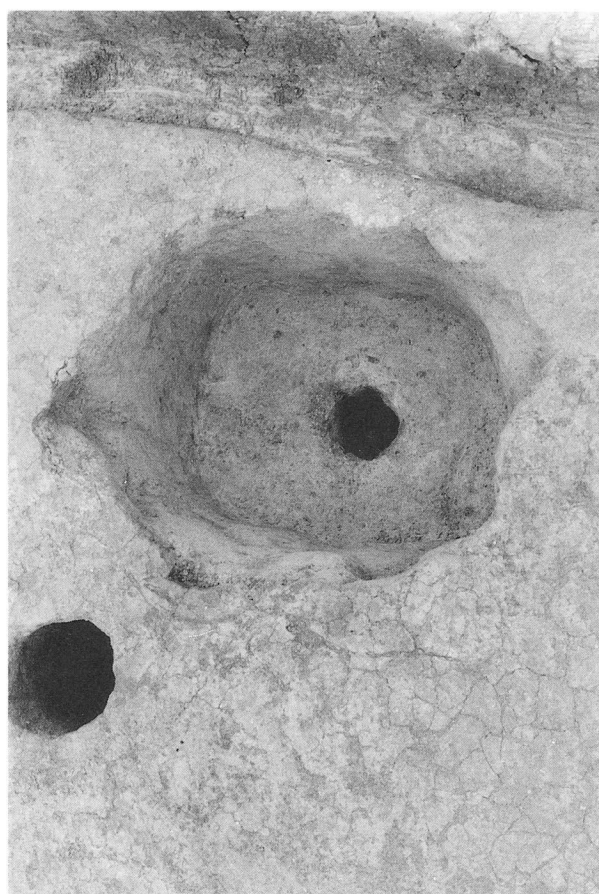
S K - 13 完掘状況 (南から)



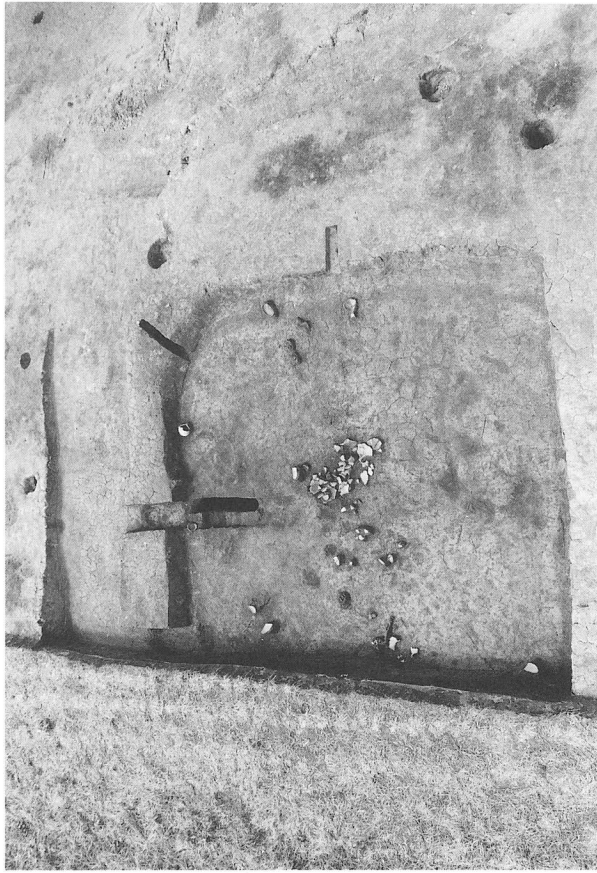
S K - 15 底面ピット検出状況 (南から)



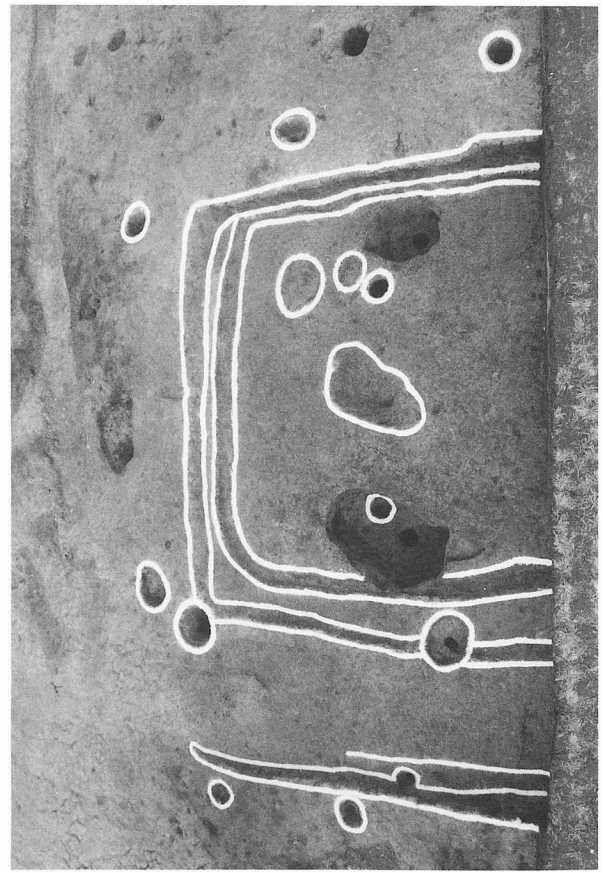
S K - 12 完掘状況 (東から)



S K - 14 完掘状況 (南から)



S I - 1 遺物出土状況 (東から)



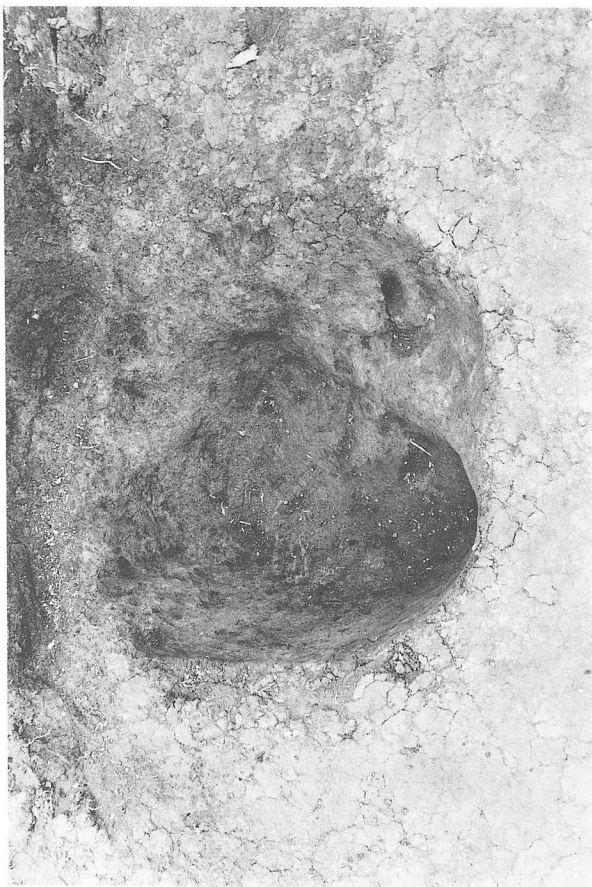
S I - 1 発掘状況 (南から)



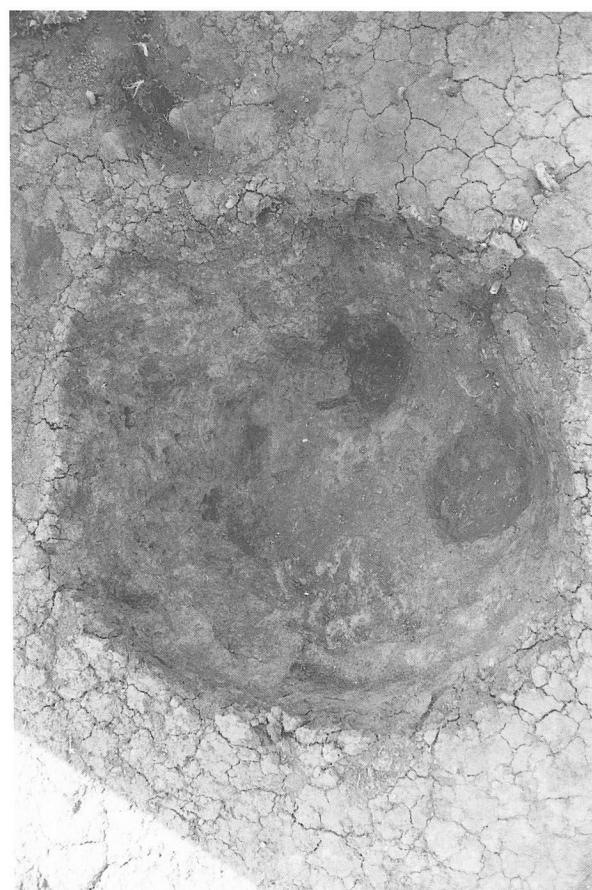
S I - 1 検出状況 (南から)



S I - 1 土層断面 (北から)



S K - 17 完掘状況 (北から)



S K - 16 完掘状況 (北から)

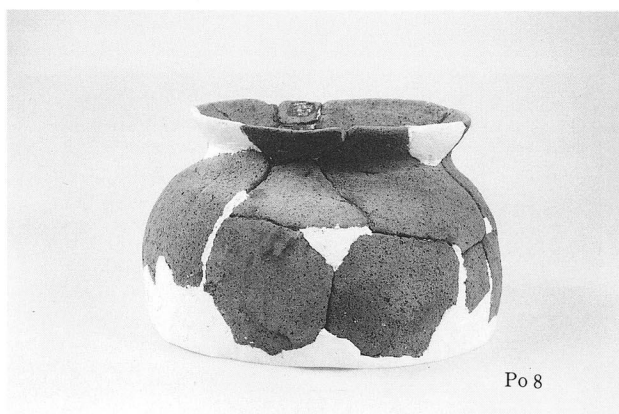
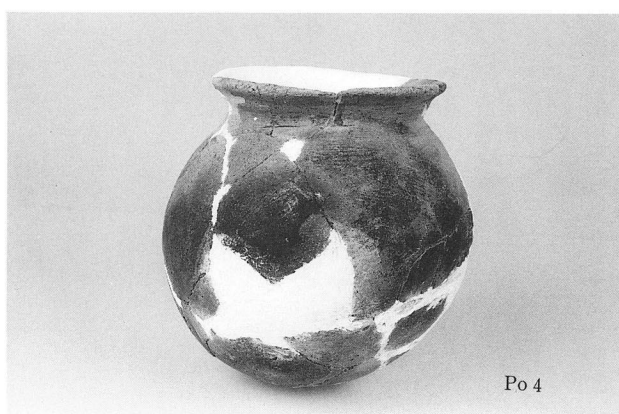
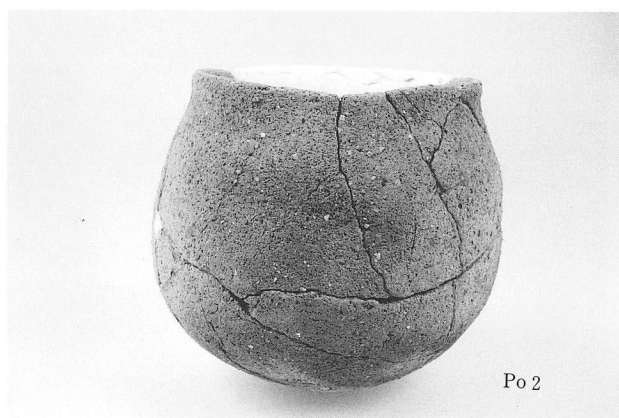
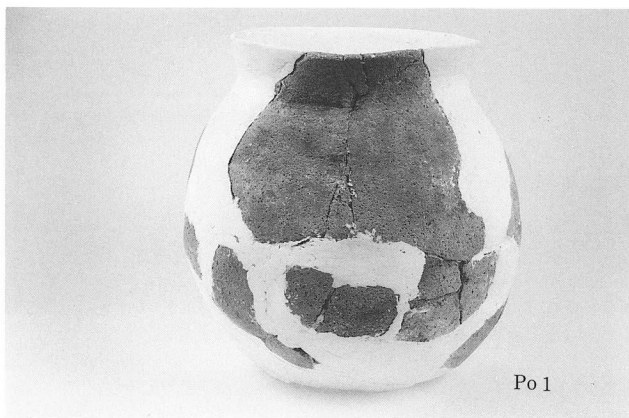


坂長宮田ノ上遺跡 調査後 (西から)

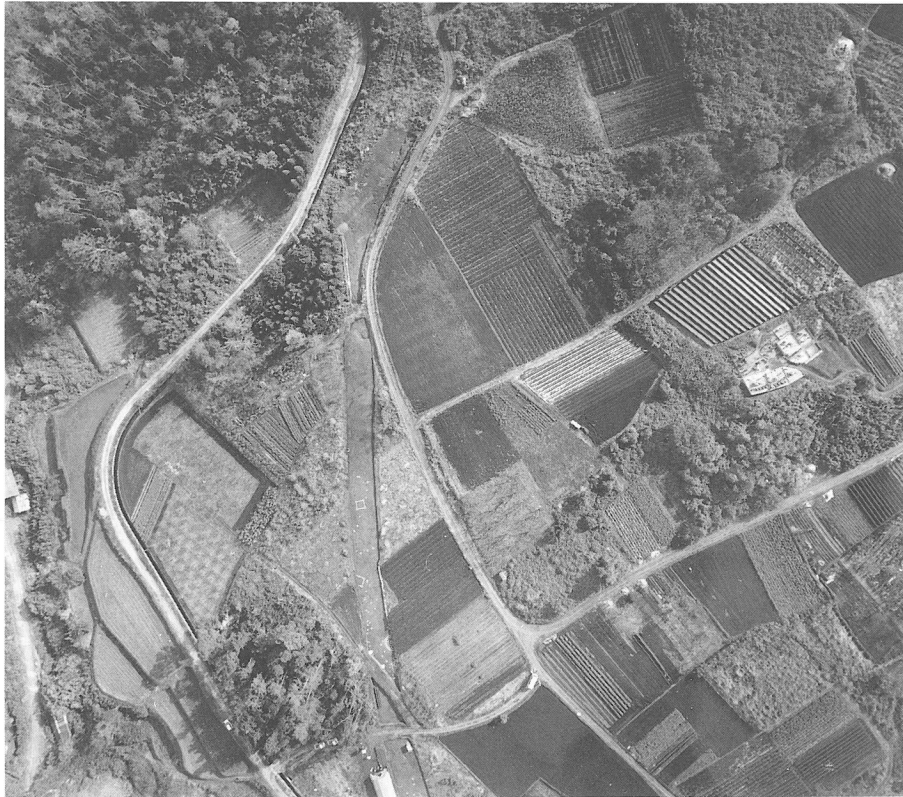


坂長宮田ノ上遺跡 調査後 (北から)

图版 8



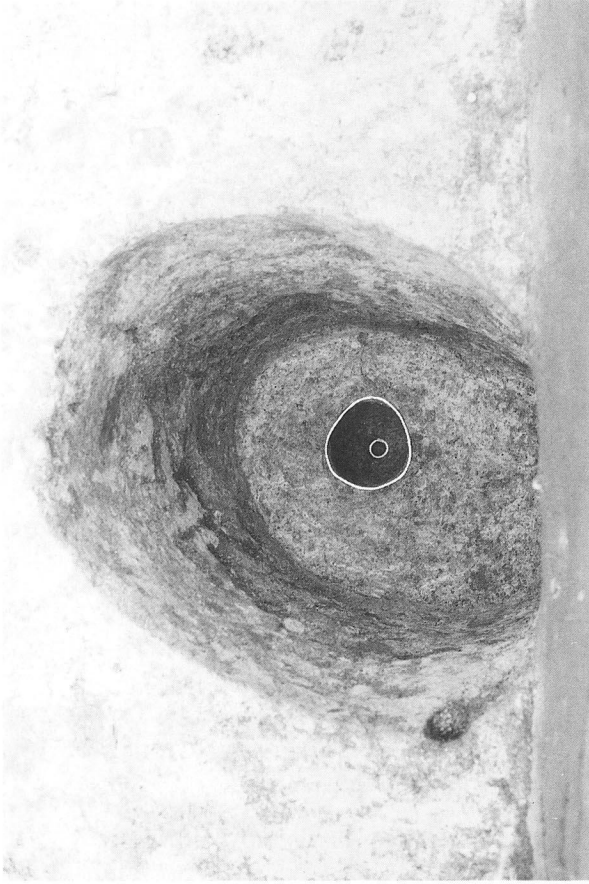
坂中第 5 遺跡



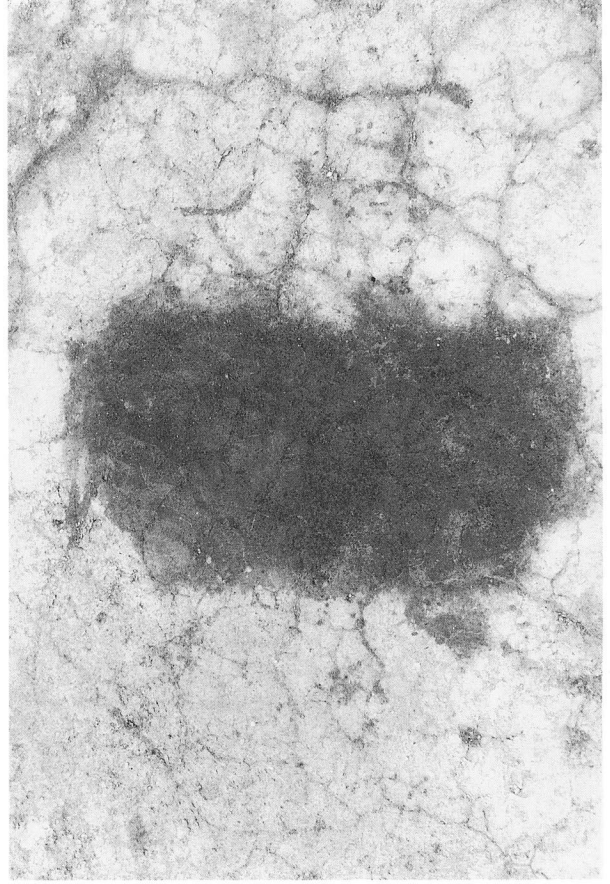
坂中第 5 遺跡 A 区 調査後 (北上空から)



坂中第 5 遺跡 A 区 調査後 (北上空から)



SK-2 完掘状況 (西から)



SK-4 検出状況 (南から)



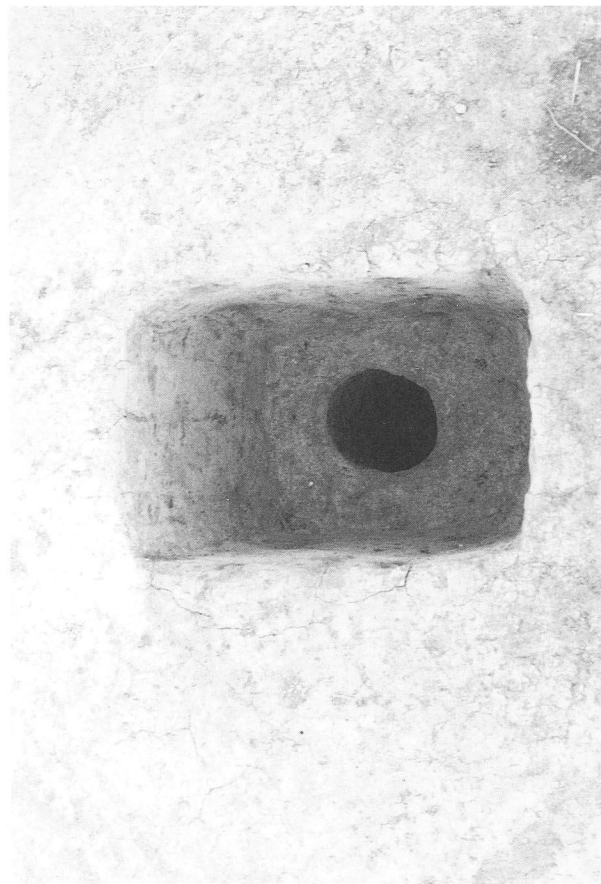
SK-1 完掘状況 (西から)



SK-3 完掘状況 (南から)



SK-4 底面ピット土層断面 (北から)



SK-6 完掘状況 (西から)



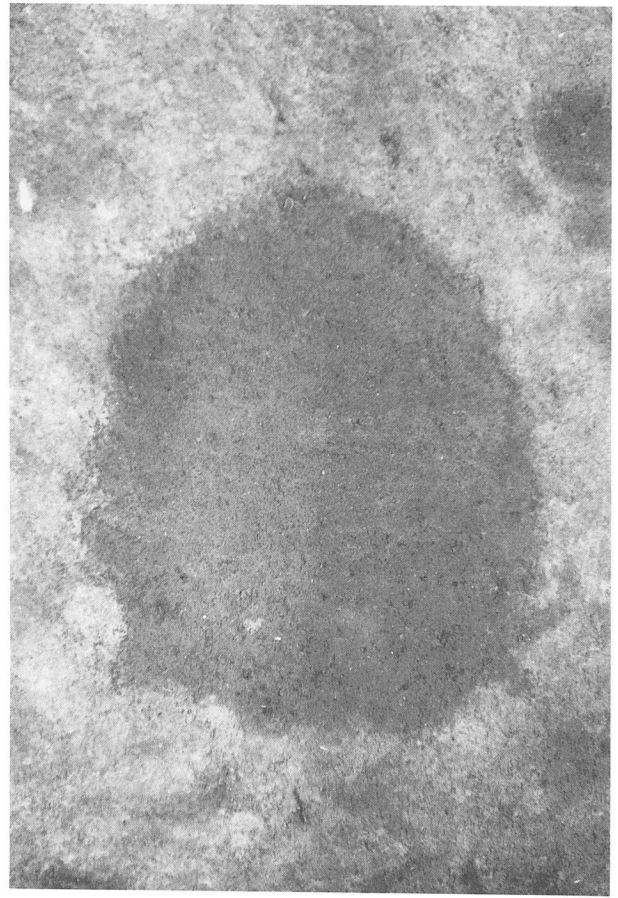
SK-4 土層断面 (北から)



SK-4 杭痕跡完掘状況 (北から)



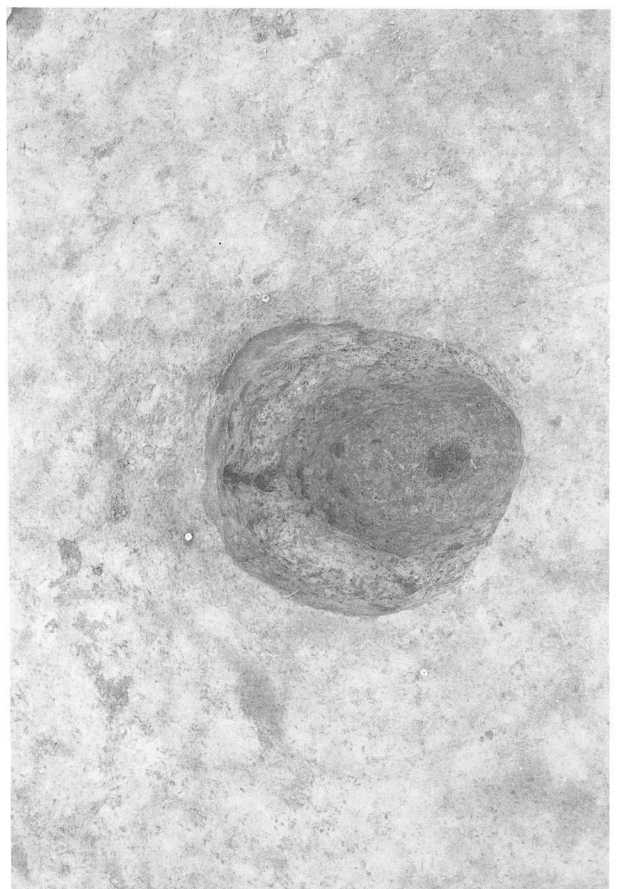
SK-7 土層断面 (北東から)



SK-8 検出状況 (西から)



SK-7 土層断面 (北から)



SK-7 発掘状況 (北から)



SK-8 完掘状況 (西から)



SK-9 土層断面 (南から)



SK-8 礫検出状況 (西から)



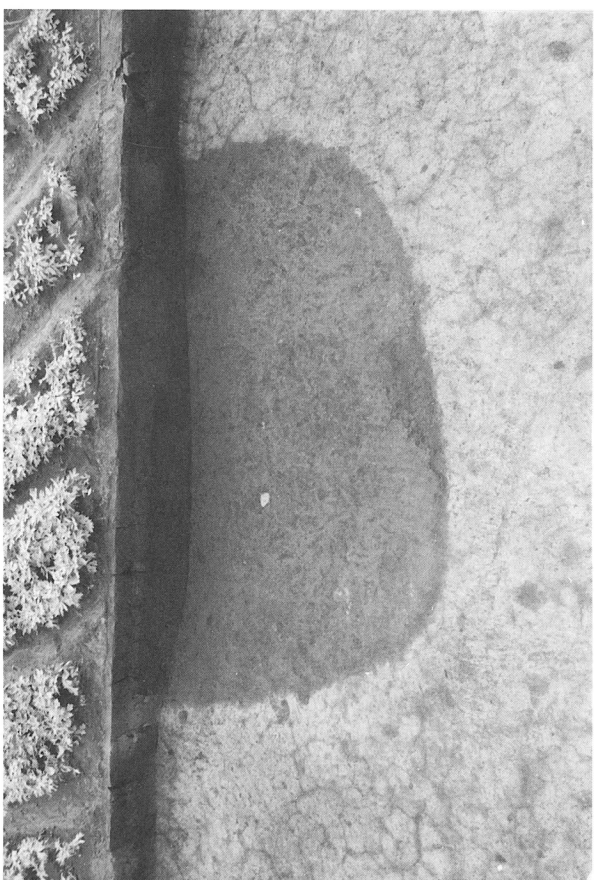
SK-9 検出状況 (南から)



S1-1 遺物出土状況 (東から)



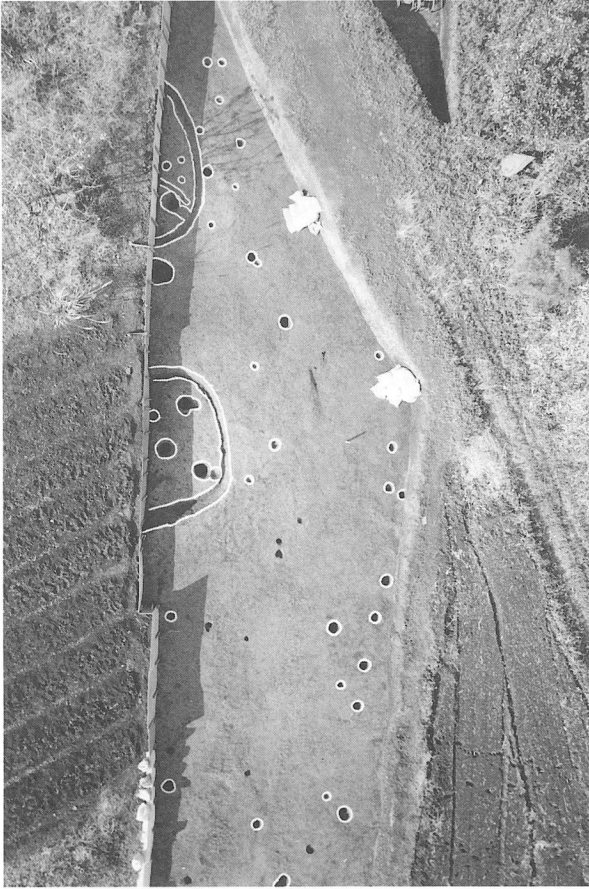
S1-2 検出状況 (東から)



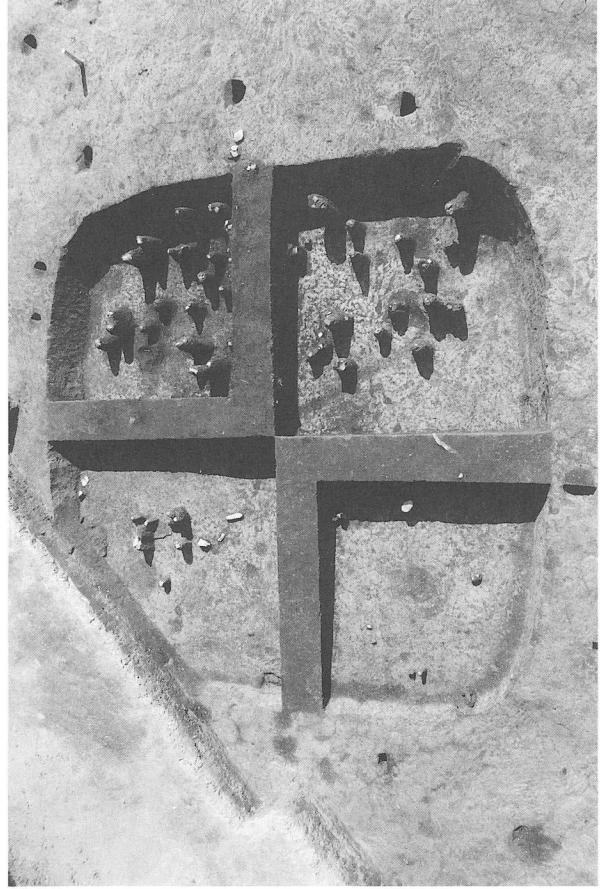
S1-1 検出状況 (東から)



S1-1 土層断面 (東から)



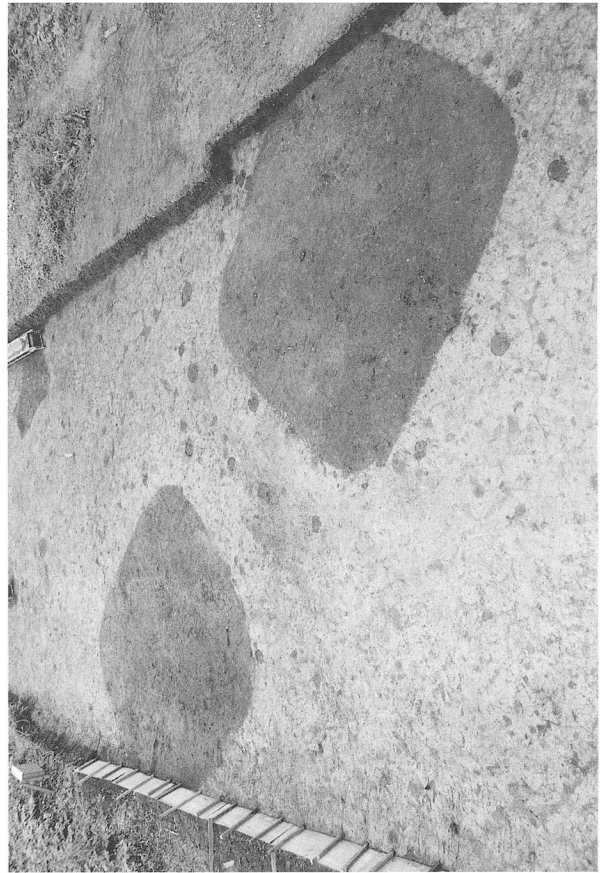
S I - 1 ・ 2、S K - 2 発掘状況（上空から）



S I - 3 遺物出土状況（西から）



S I - 2 遺物出土状況（東から）



S I - 3 ・ 4 検出状況（南から）



S I - 3・4 完掘状況 (上空から)



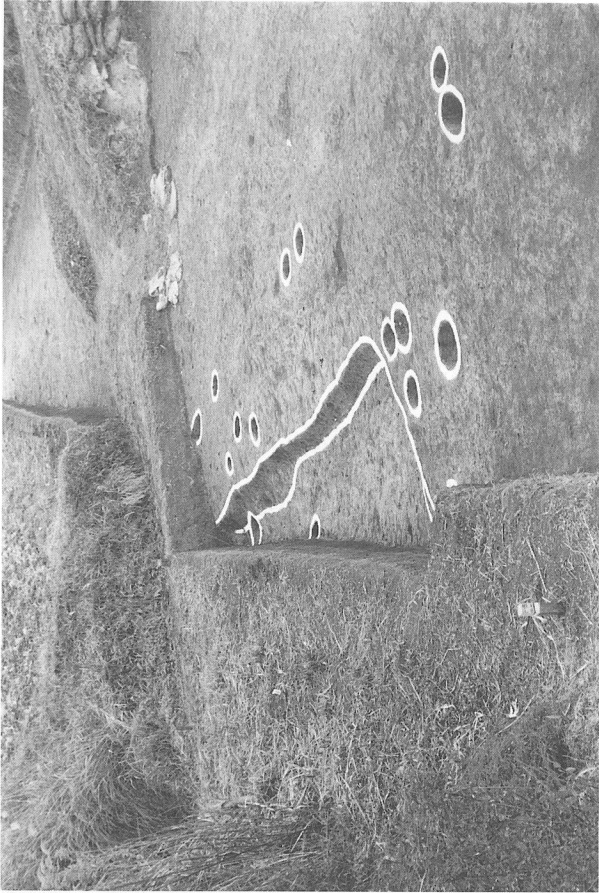
S I - 5 遺物出土状況 (南から)



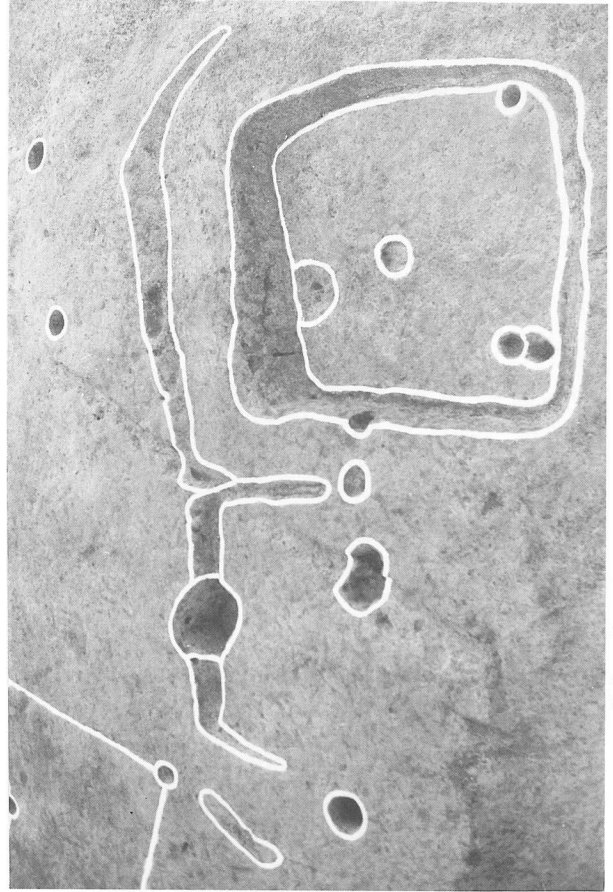
S I - 4 遺物出土状況 (東から)



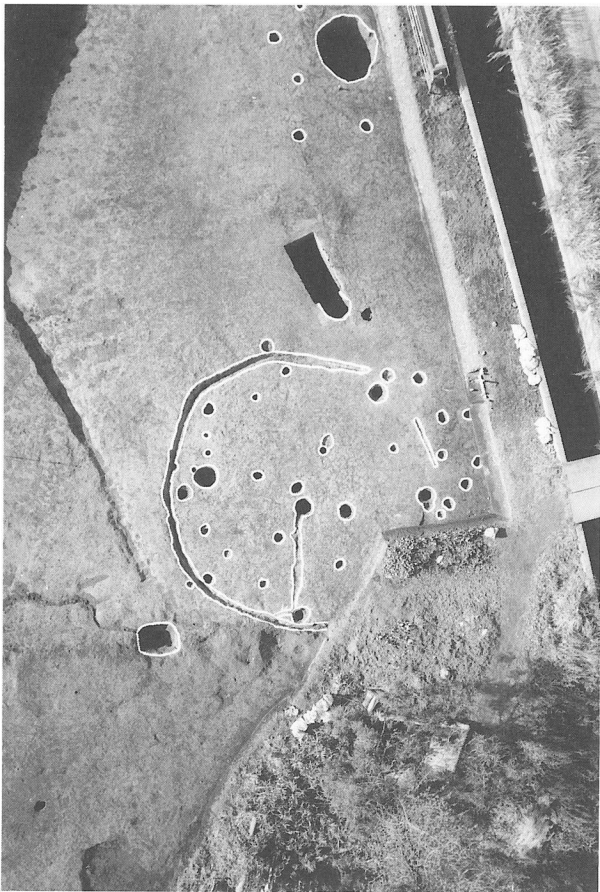
S I - 5 検出状況 (西から)



S I - 6 完掘状況 (北から)



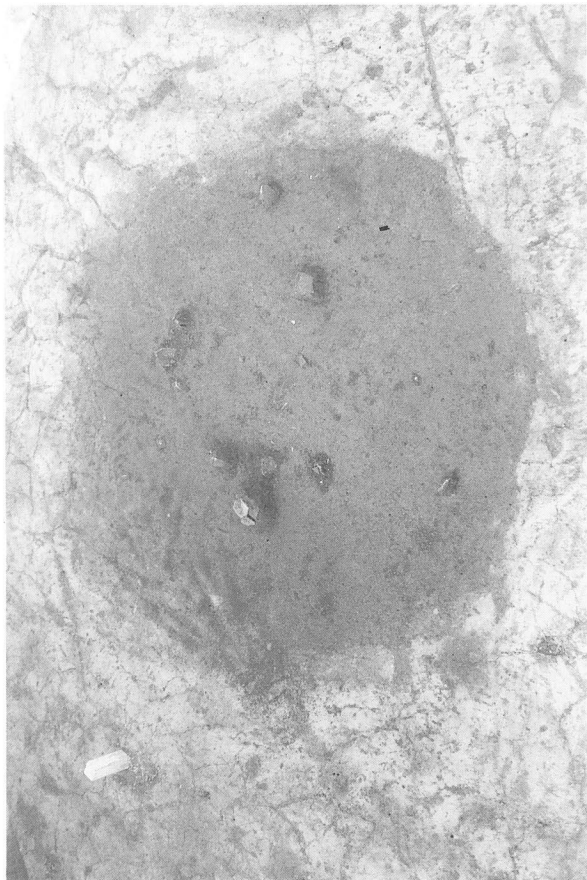
S I - 7・8・9、S K - 5 完掘状況 (東から)



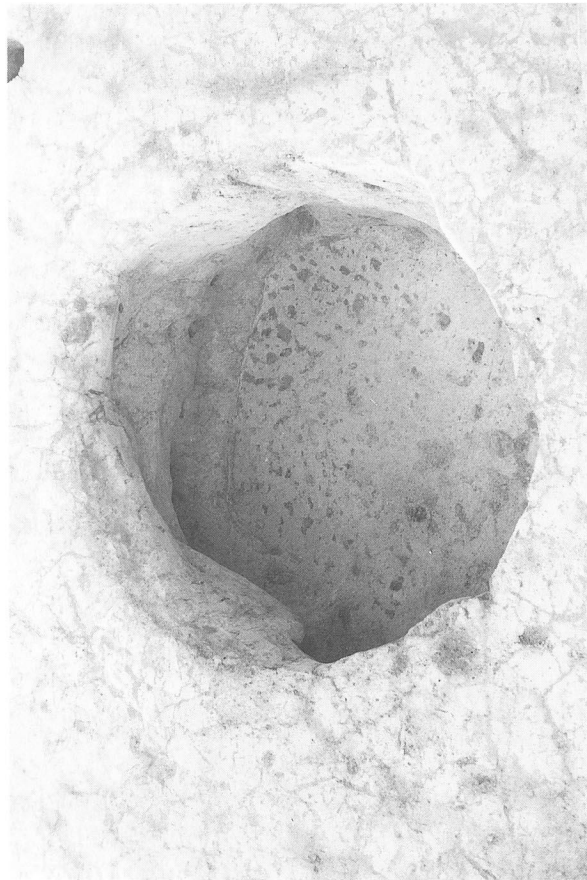
S I - 5、S K - 3・4・10 完掘状況 (上空から)



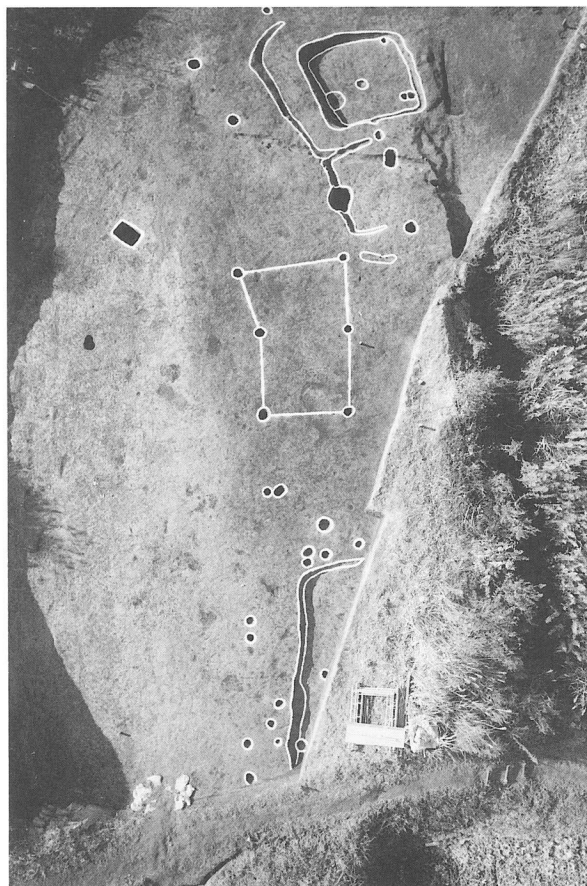
S I - 7・8・9 検出状況 (西から)



SK-10 検出状況 (西から)



SK-10 完掘状況 (北から)



SI-6・7・8・9、SB-5・6 完掘状況 (上空から)



SK-10 土層断面 (北から)



伯楽塚16号墳周溝検出状況（南から）



伯楽塚16号墳周溝完掘状況（南から）



伯楽塚16号墳周溝検出状況（北東から）



伯楽塚16号墳周溝完掘状況（北東から）



伯楽塚16号墳土層断面 (南から)



伯楽塚16号墳北側土層断面 (東から)



伯楽塚16号墳土層断面 (南から)



伯楽塚16号墳南側周溝土層断面 (東から)



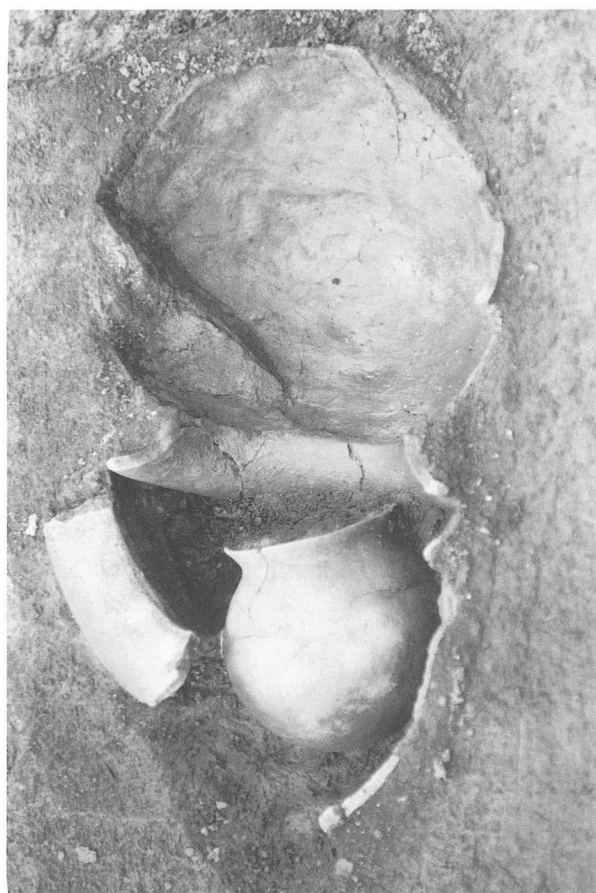
土器棺 土層断面 (北から)



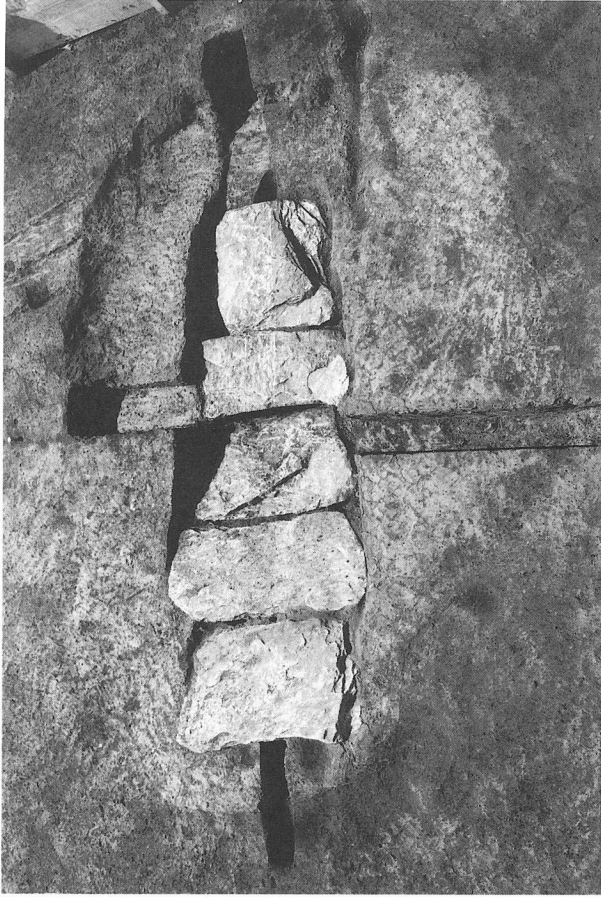
土器棺 Po105取上後 (南から)



土器棺 検出状況 (東から)



土器棺 Po105出土状況 (南から)



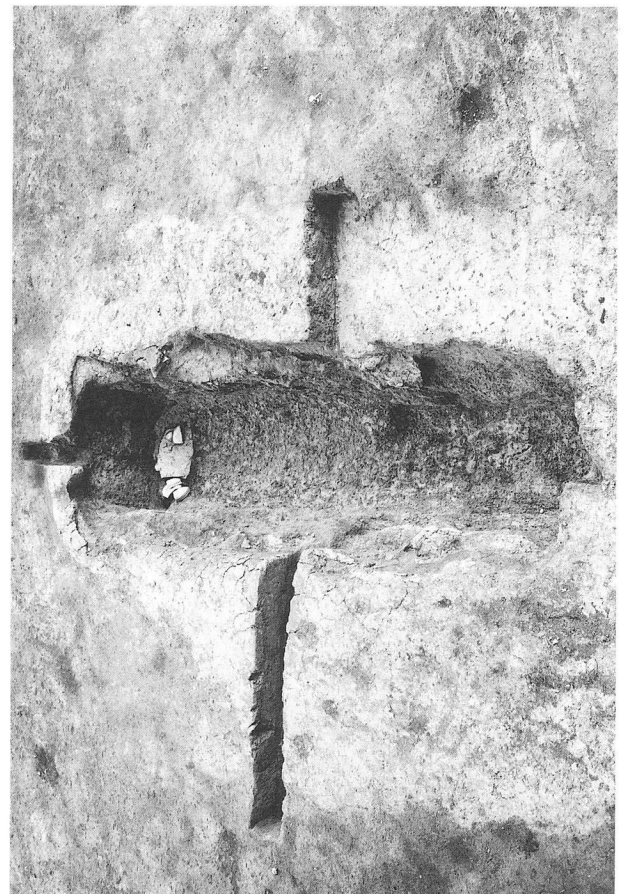
SX-1 検出状況 (北から)



SX-1 遺物出土状況 (西から)



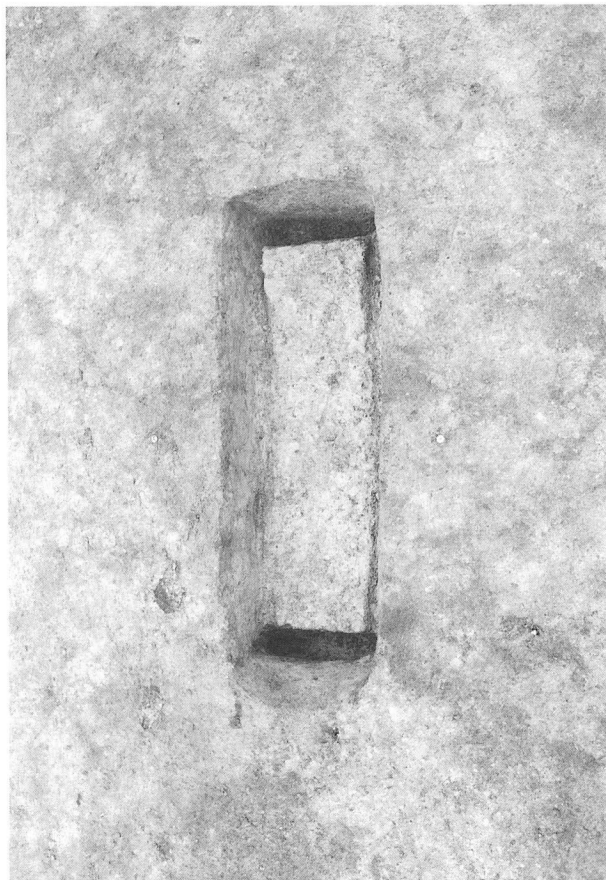
SX-1 検出状況 (東から)



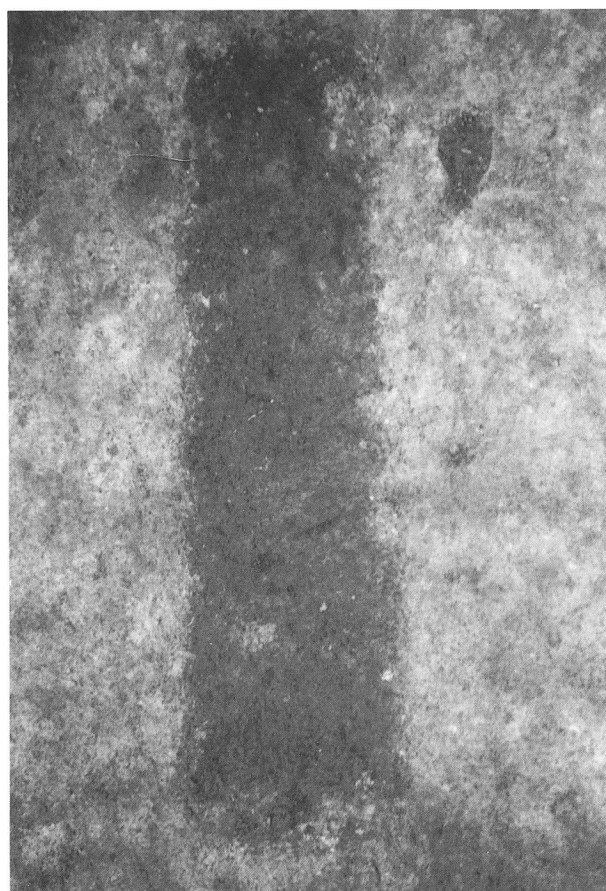
SX-1 完掘状況 (西から)



SX-3 掘下 (南から)



SX-3 完掘状況 (南から)



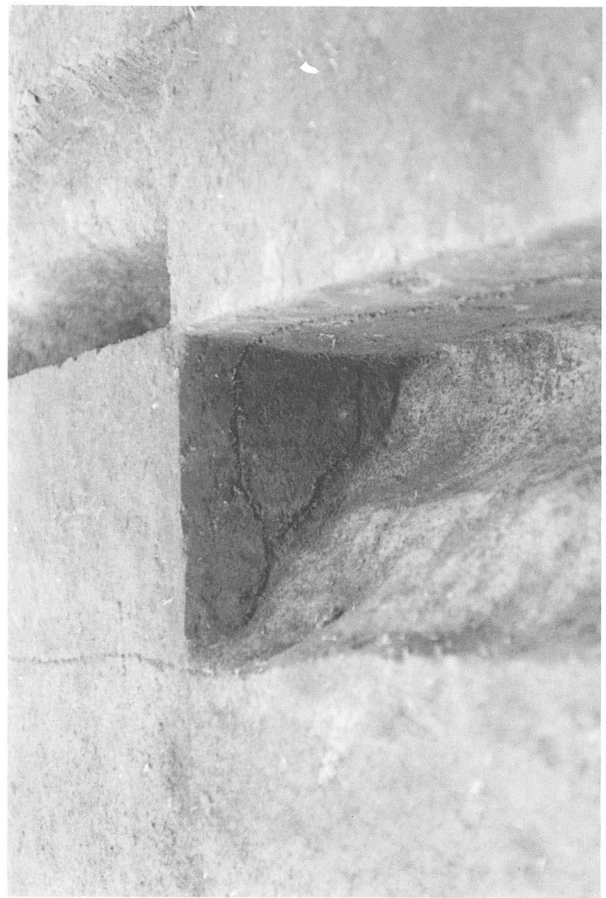
SX-3 検出状況 (南から)



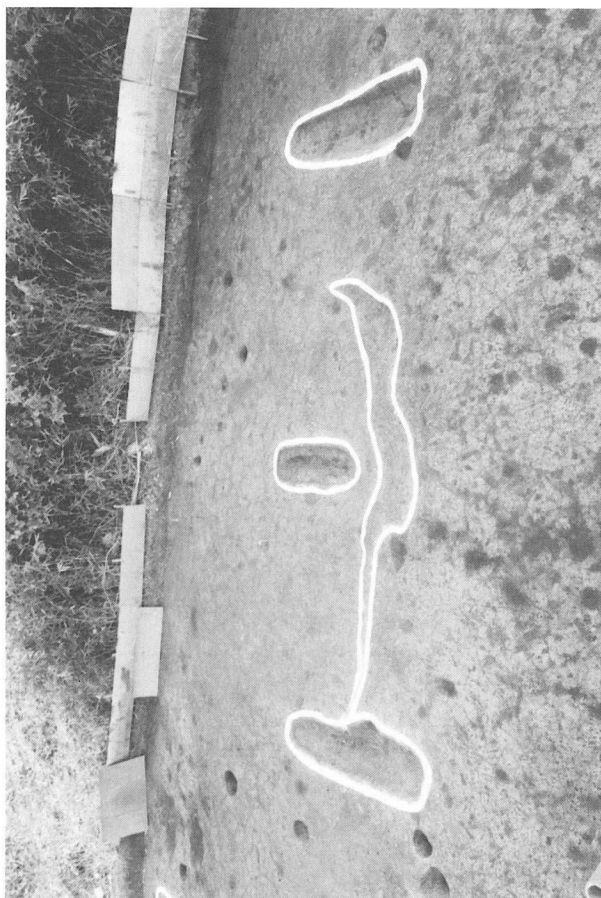
SX-3 土層断面 (東から)



SX-4 土層断面 (北から)



SX-6 土層断面 (東から)



SX-4~6、SS-1 発掘状況 (西から)



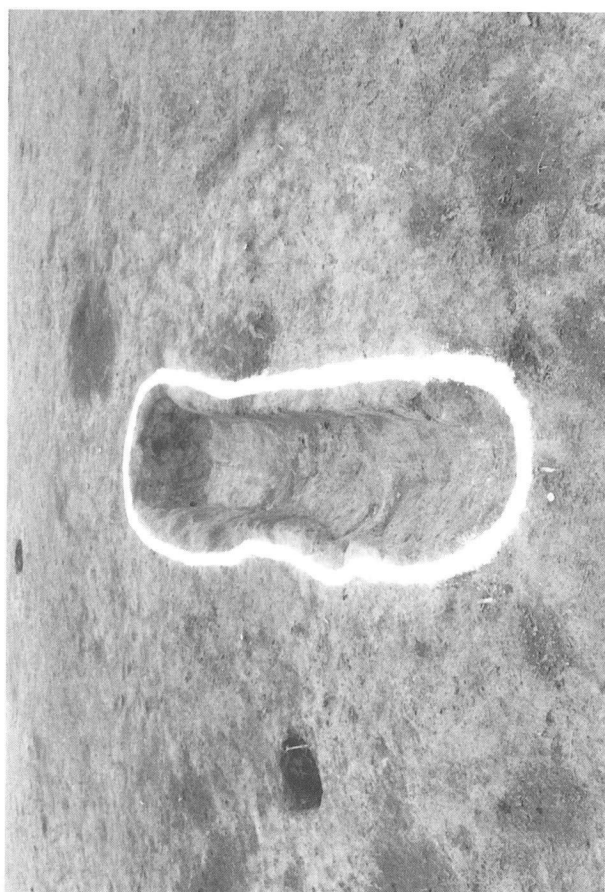
SX-5 遺物出土状況 (西から)



SX-8 完掘状況 (東から)



SX-10 完掘状況 (南から)



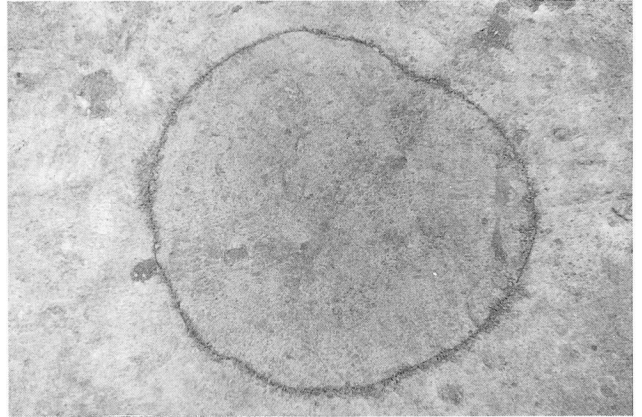
SX-7 完掘状況 (西から)



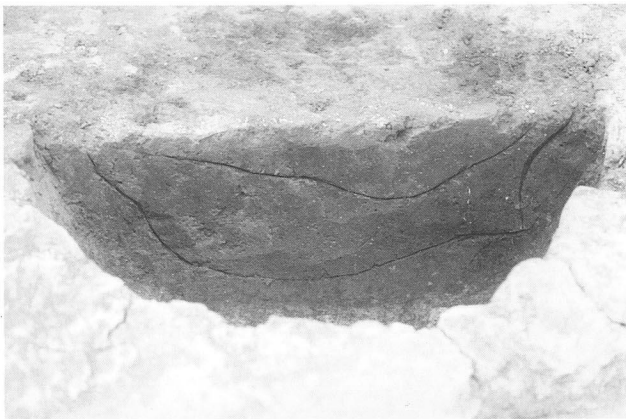
SX-9 完掘状況 (南から)



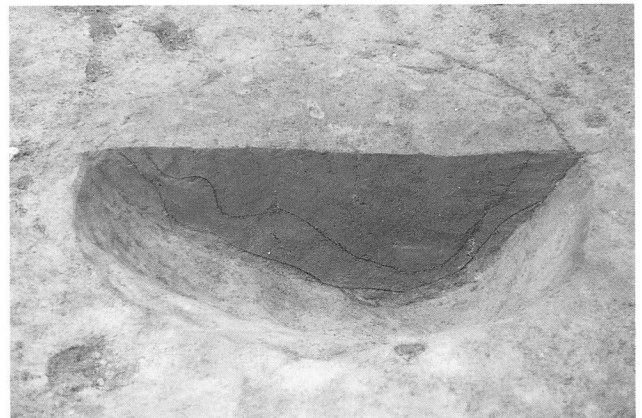
S K - 11 検出状況 (北から)



S K - 12 検出状況 (東から)



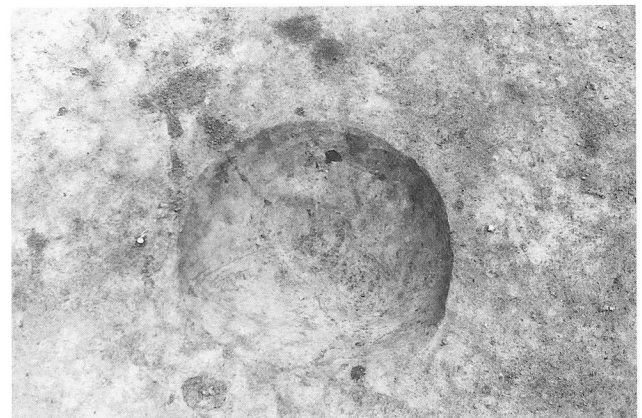
S K - 11 土層断面 (北から)



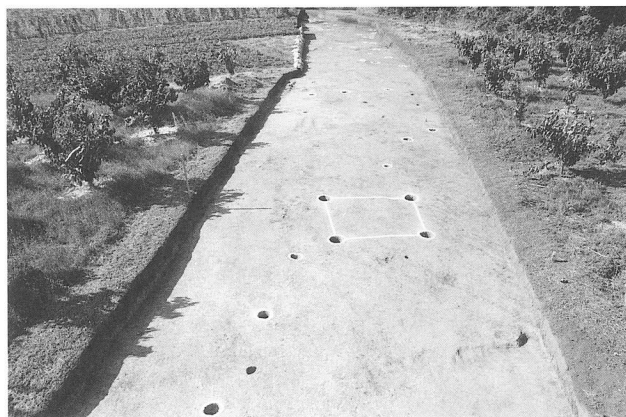
S K - 12 土層断面 (南から)



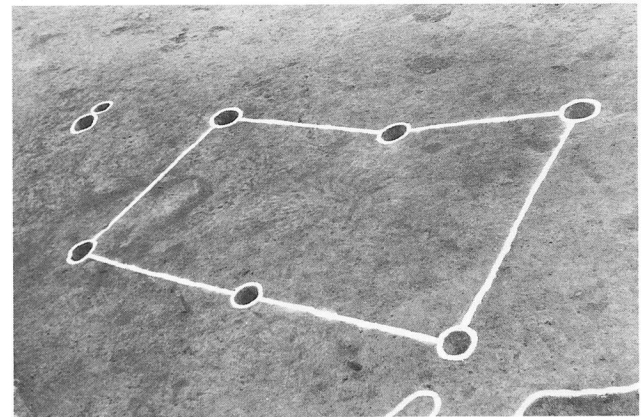
S K - 11 完掘状況 (北から)



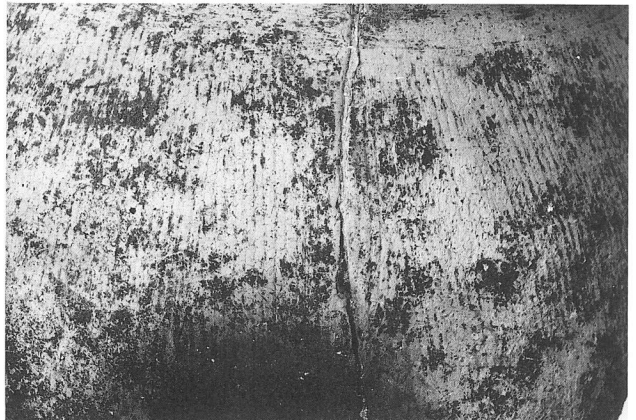
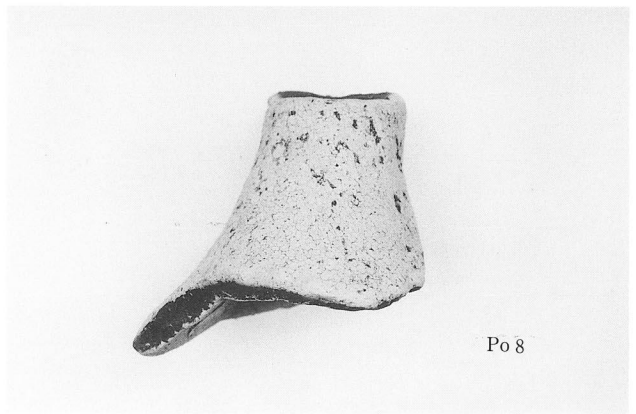
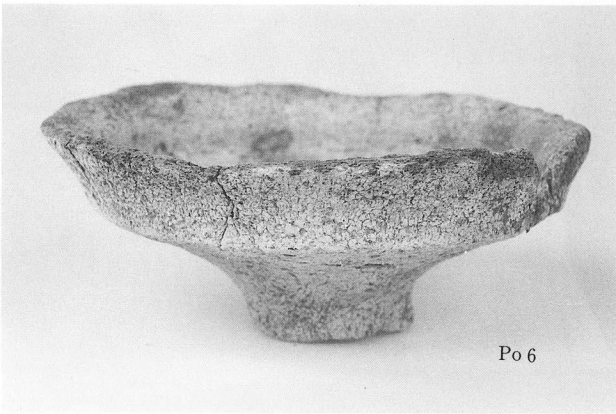
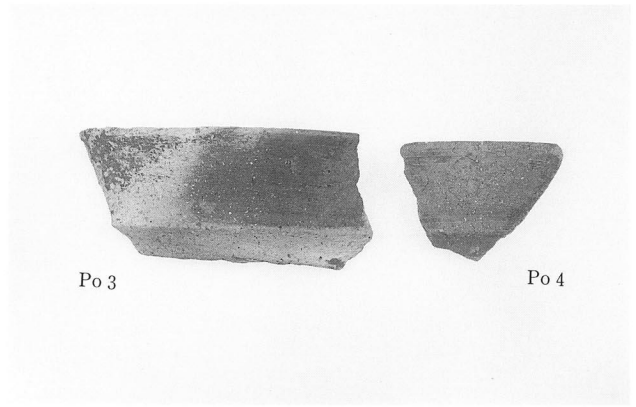
S K - 12 完掘状況 (南から)



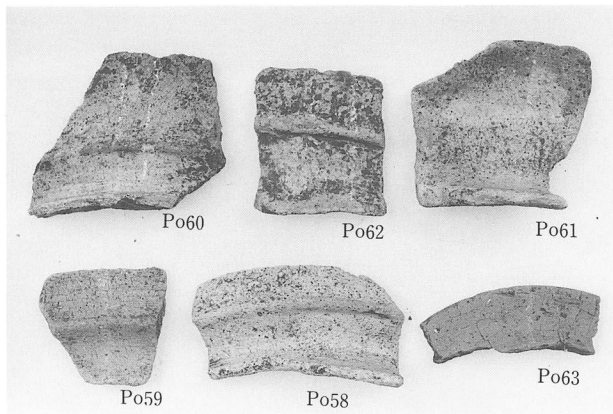
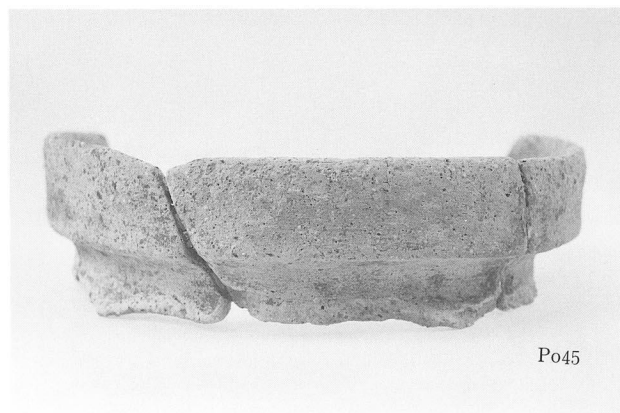
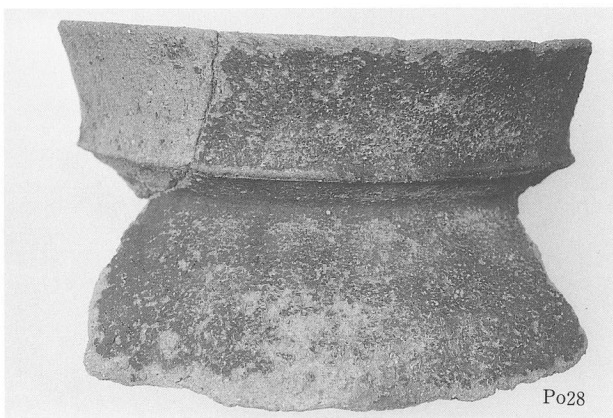
S B - 1 完掘状況 (南から)

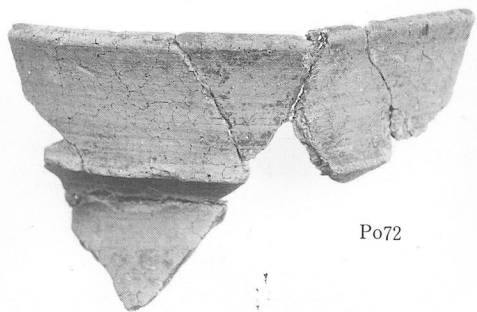


S B - 2 完掘状況 (東から)

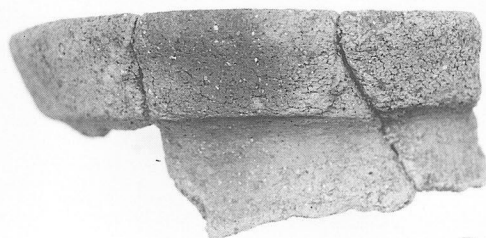


图版28





Po72



Po77



Po84



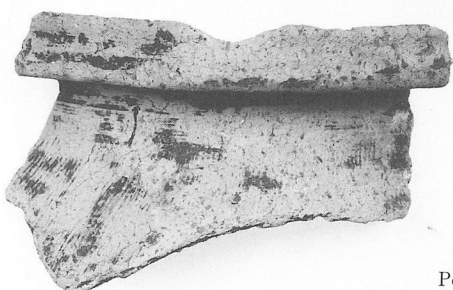
Po85



Po86



Po88

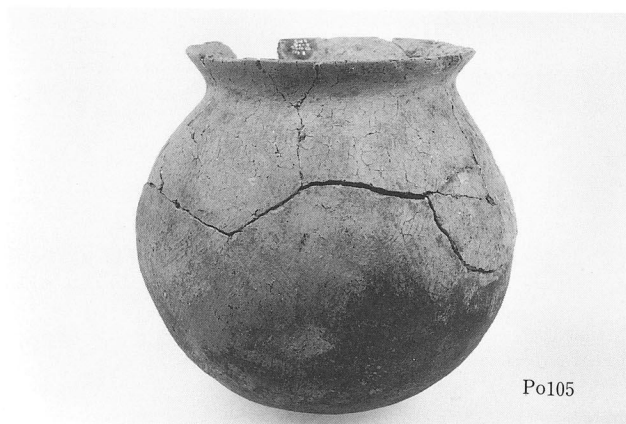
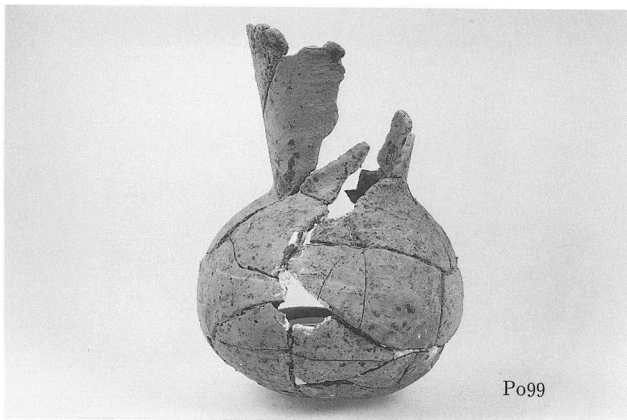


Po89

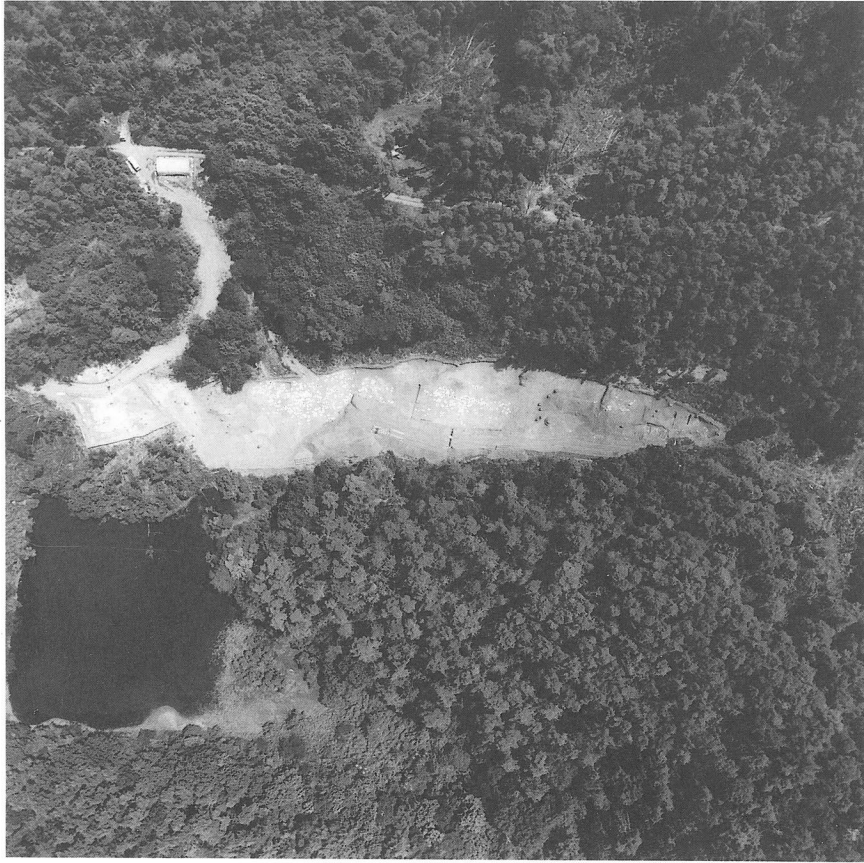


Po96

图版30



坂長佛谷遺跡



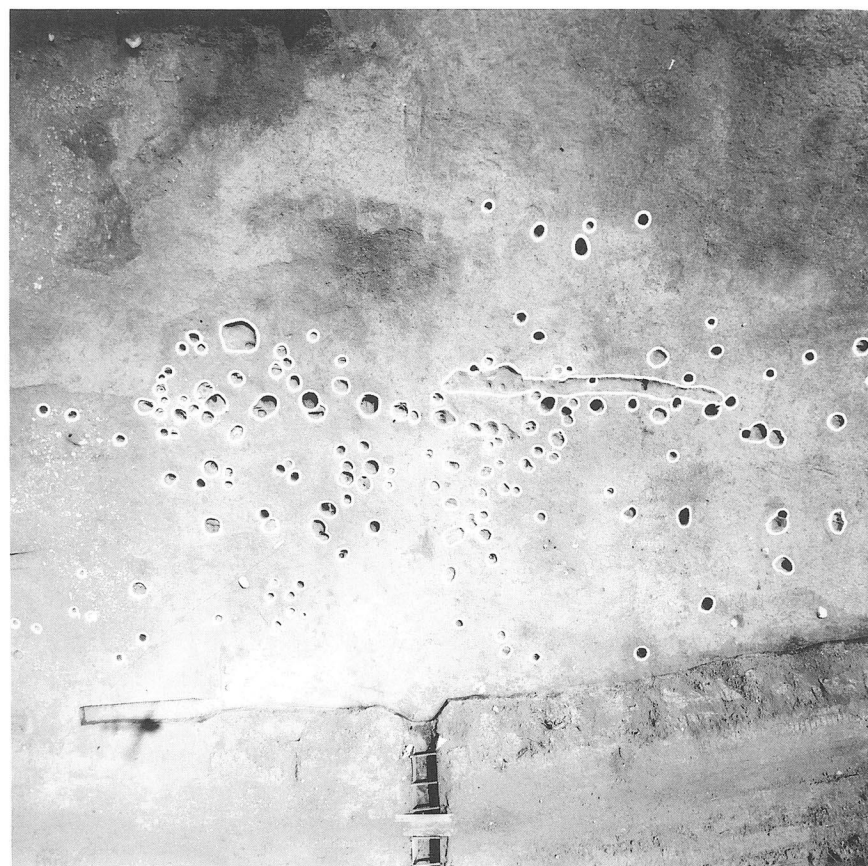
調査地全景（西から）



調査地上空より米子平野を望む（南より）



ピット群1 (西より)



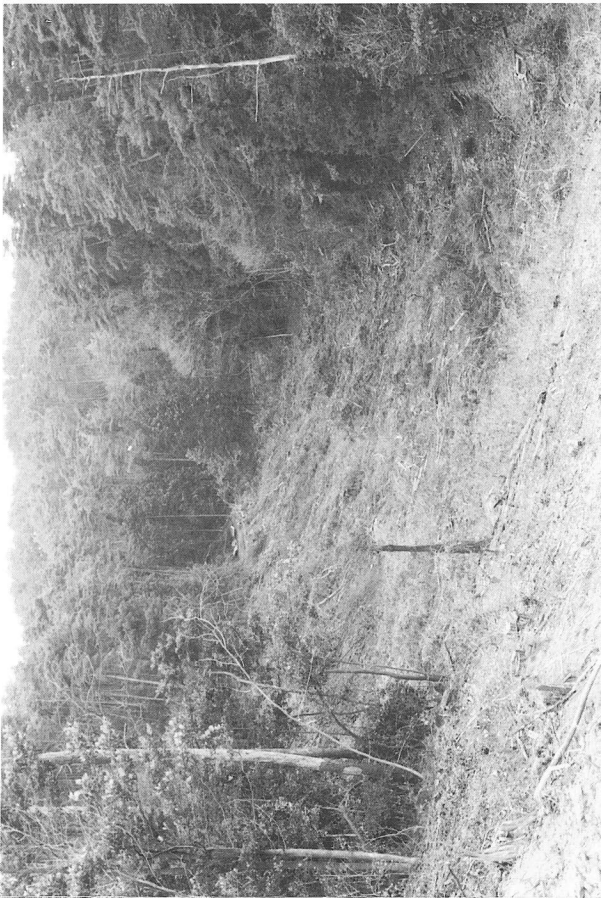
ピット群2 (西より)



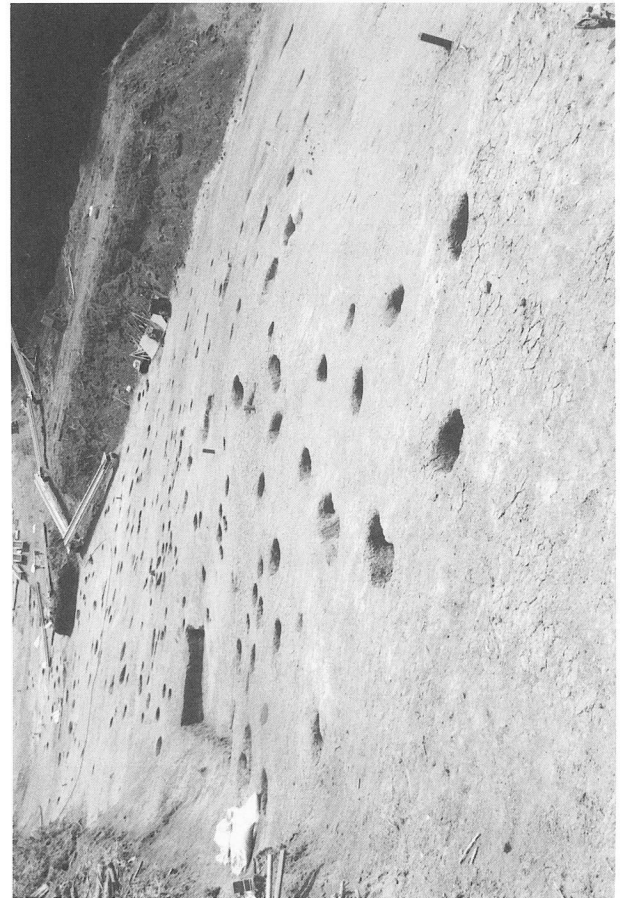
調査前 (北より)



ピット群1 (西より)



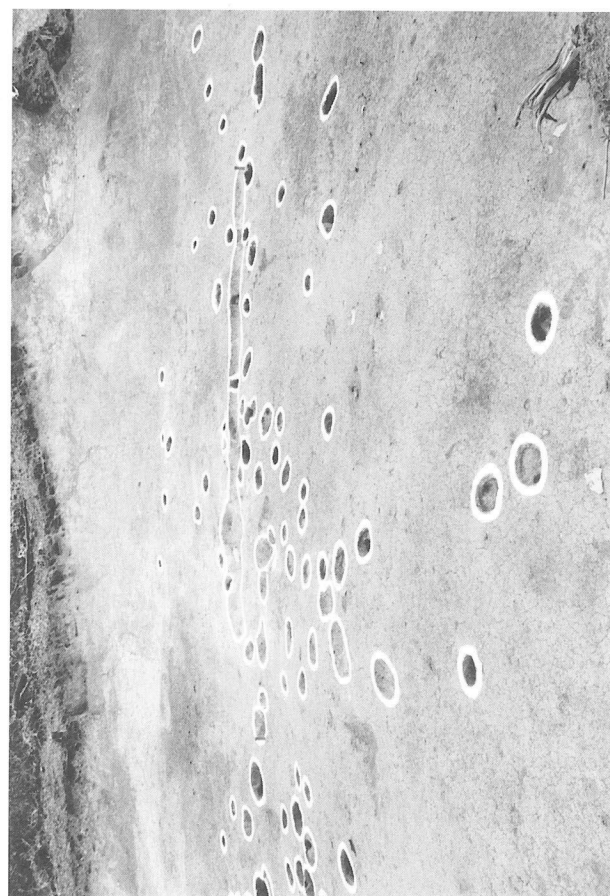
調査前 (北より)



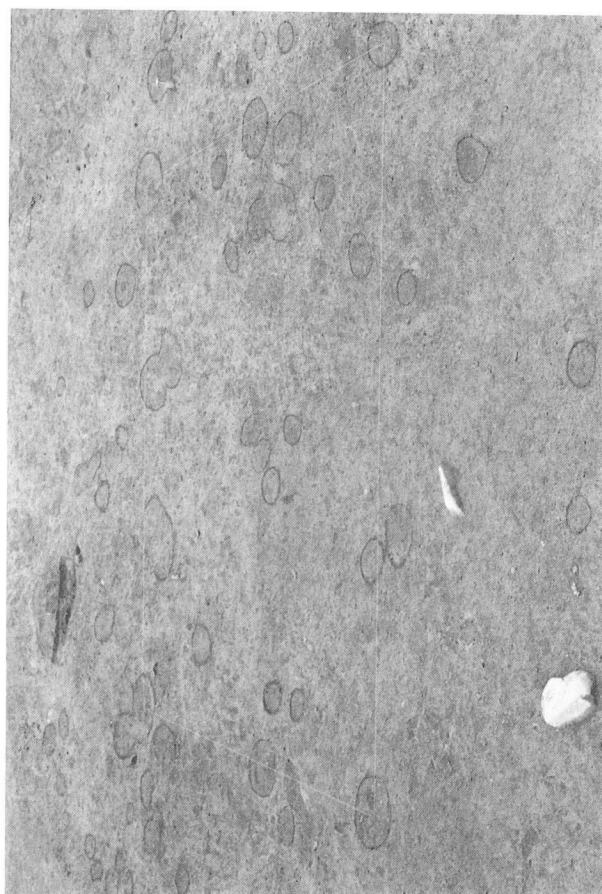
ピット群1 (北より)



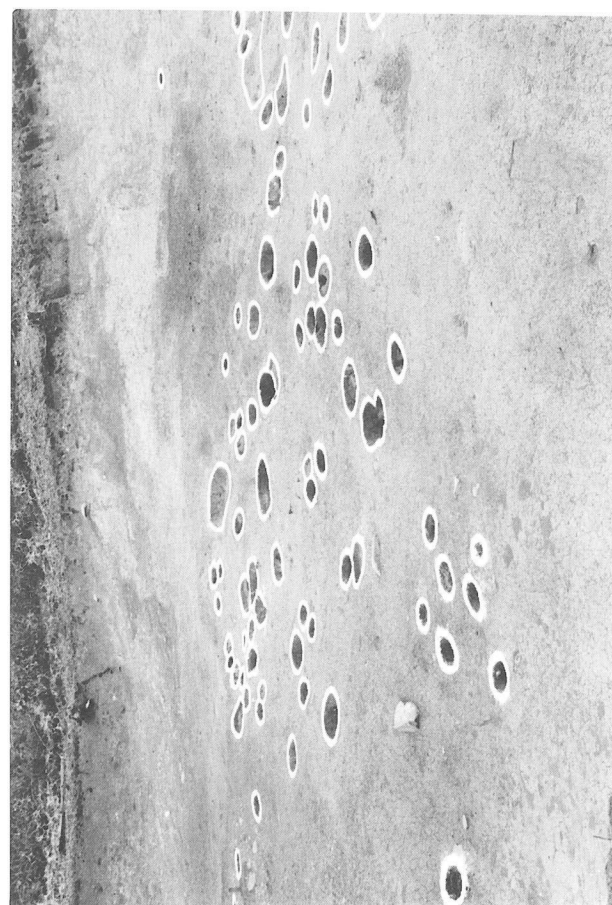
S B - 13 ~ 14 検出状況 (西より)



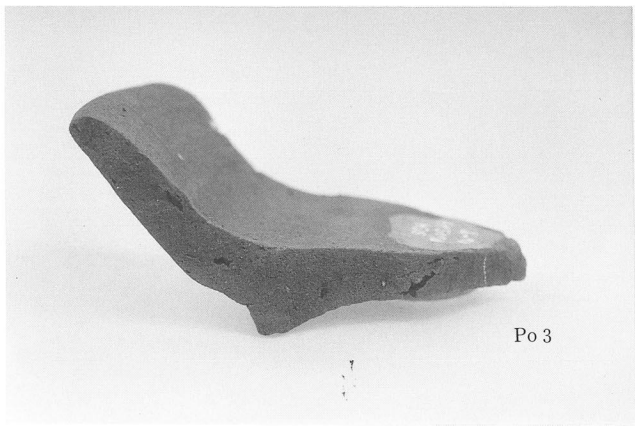
S B - 13 ~ 14 完掘状況 (西より)



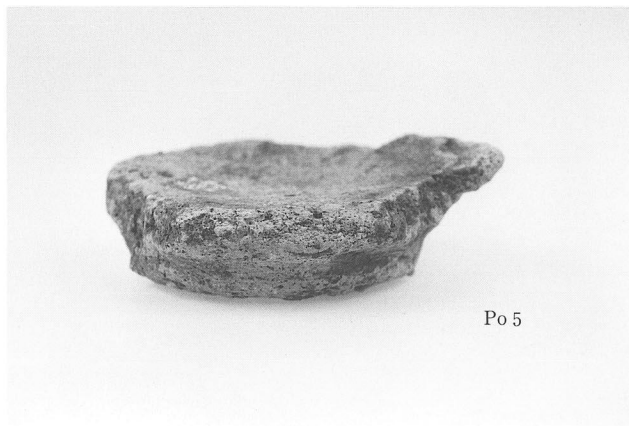
S B - 10 ~ 12 検出状況 (西より)



S B - 10 ~ 12 完掘状況 (西より)



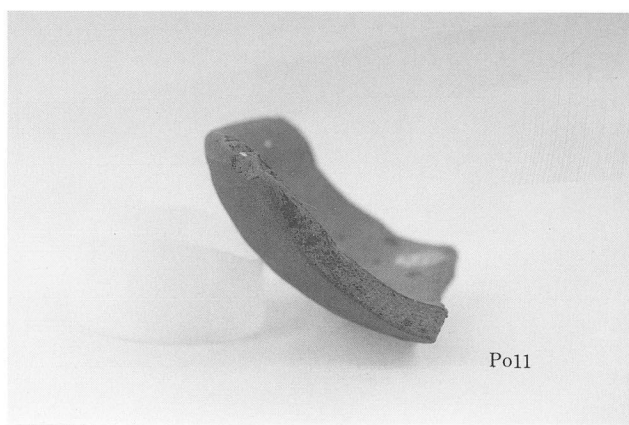
Po 3



Po 5



Po 9



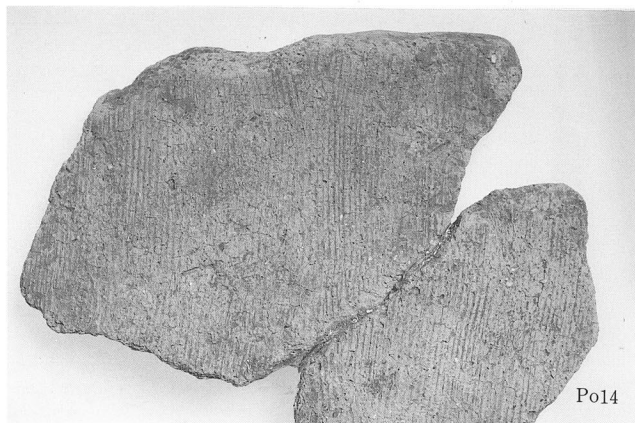
Po 11



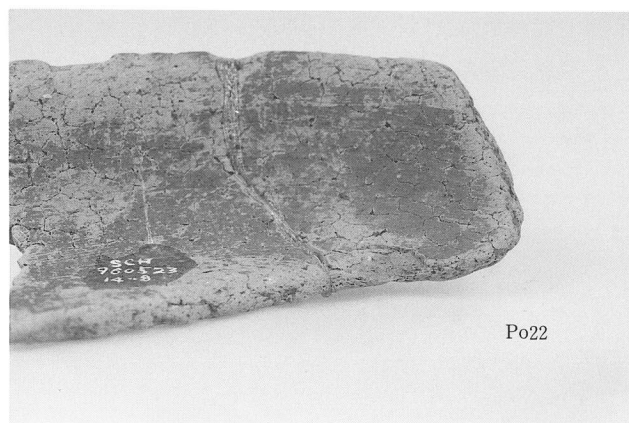
Po 20



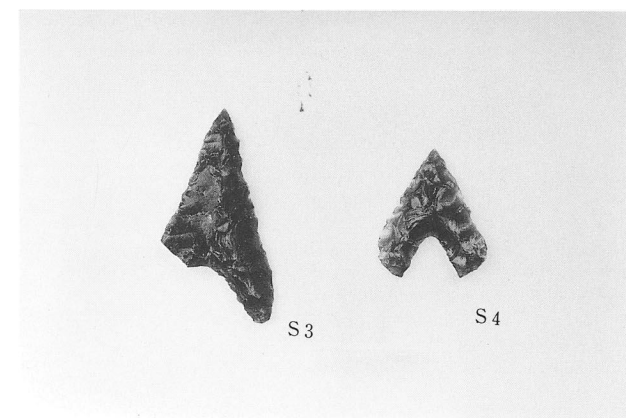
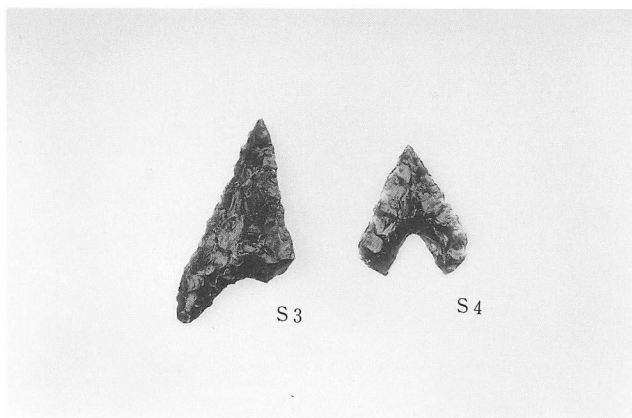
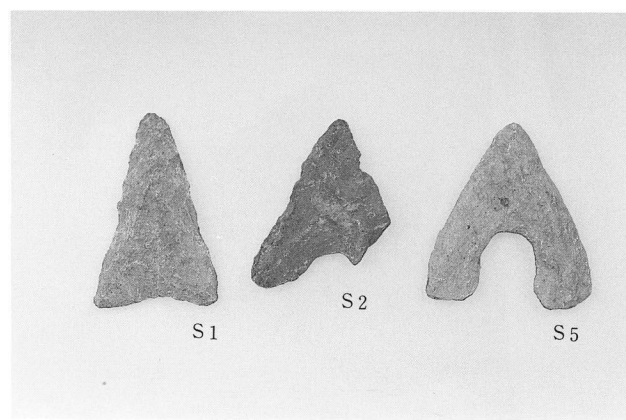
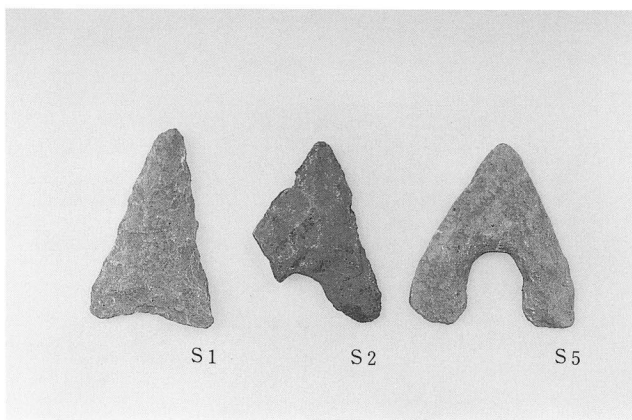
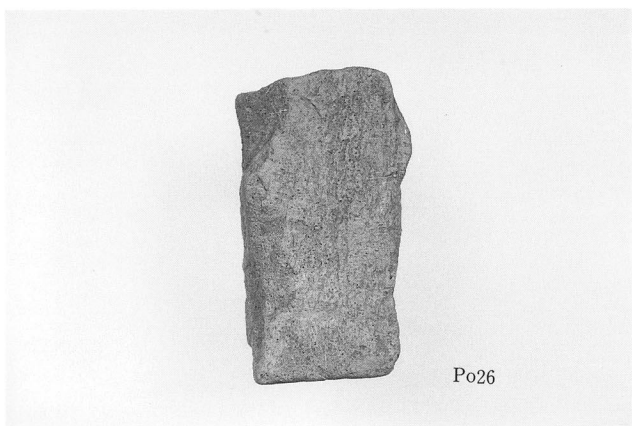
Po 20



Po 14



Po 22



小町越城野原第1遺跡



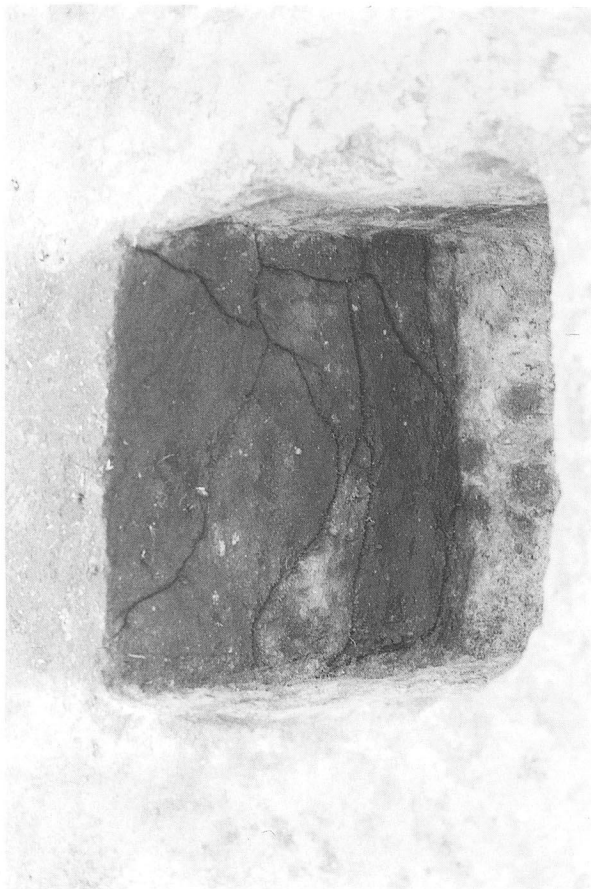
小町越城野原第1遺跡 調査前 (北から)



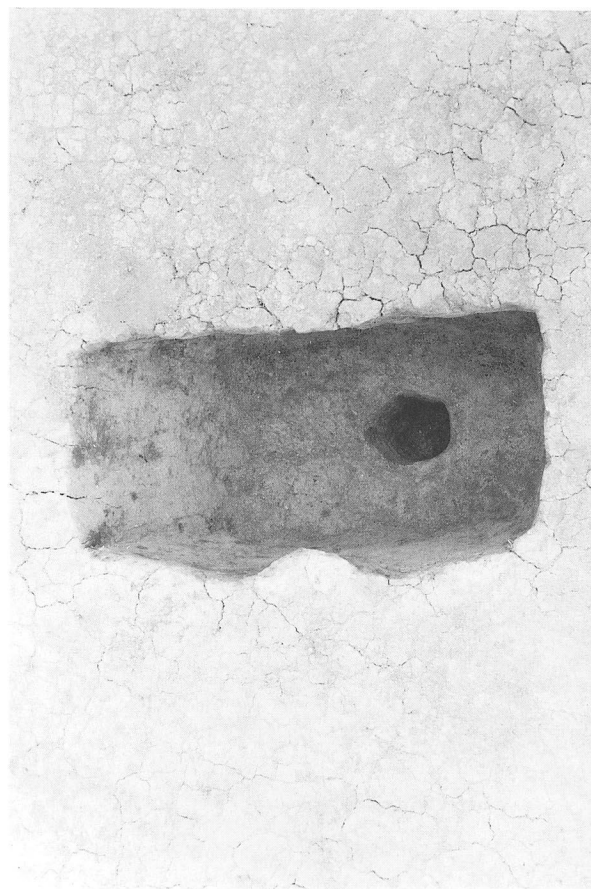
小町越城野原第1遺跡 調査前 (北東から)



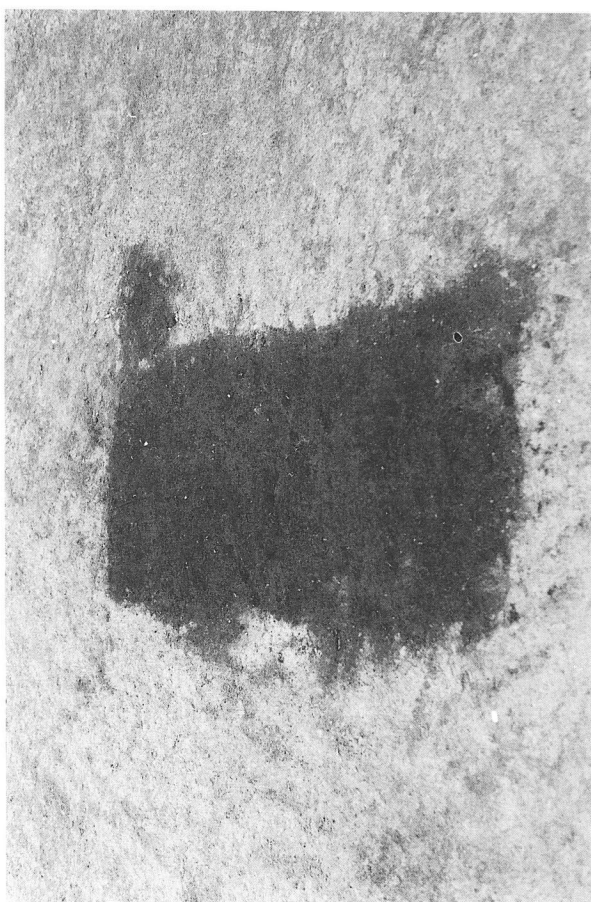
小町越城野原第1遺跡 調査前 (南西から)



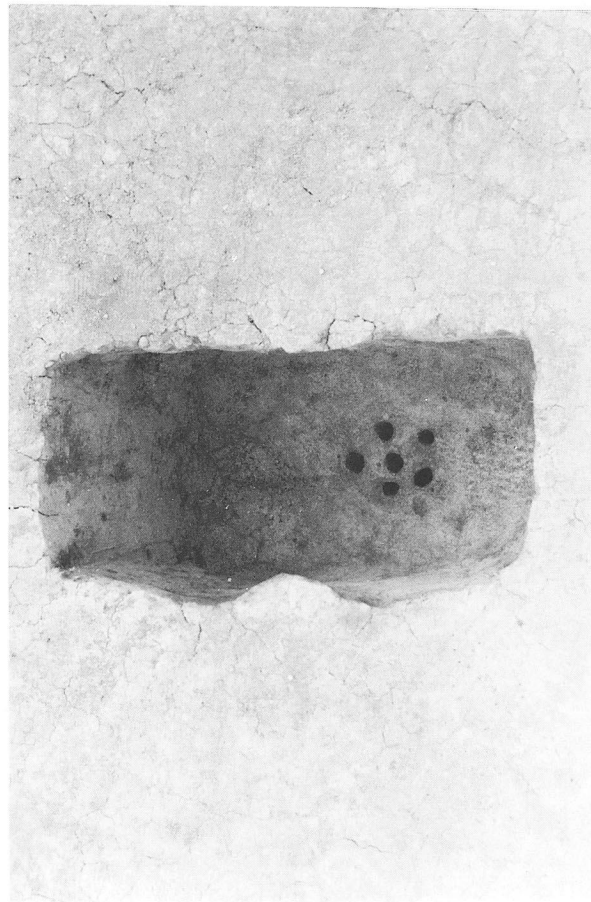
SK-1 土層断面 (西から)



SK-1 完掘状況 (西から)



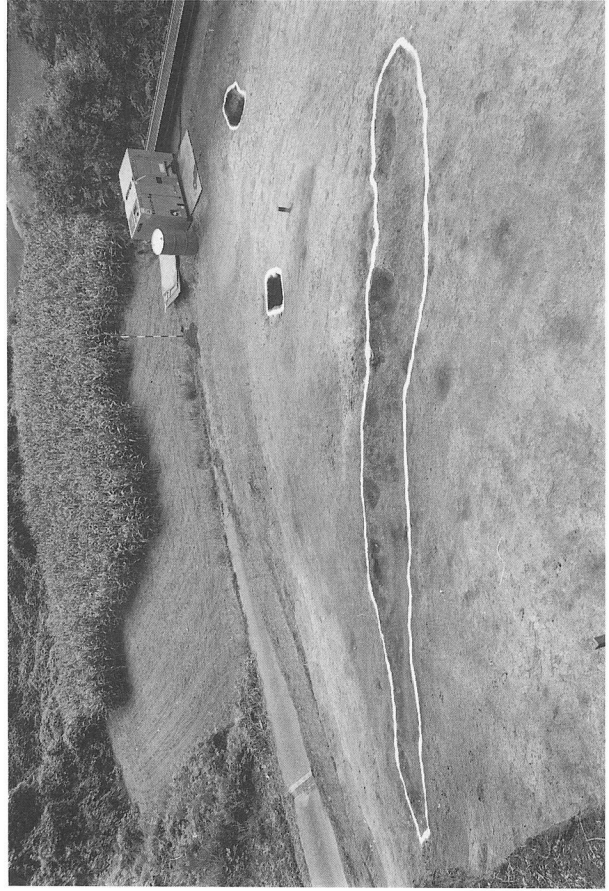
SK-1 検出状況 (西から)



SK-1 杭痕跡完掘状況 (西から)



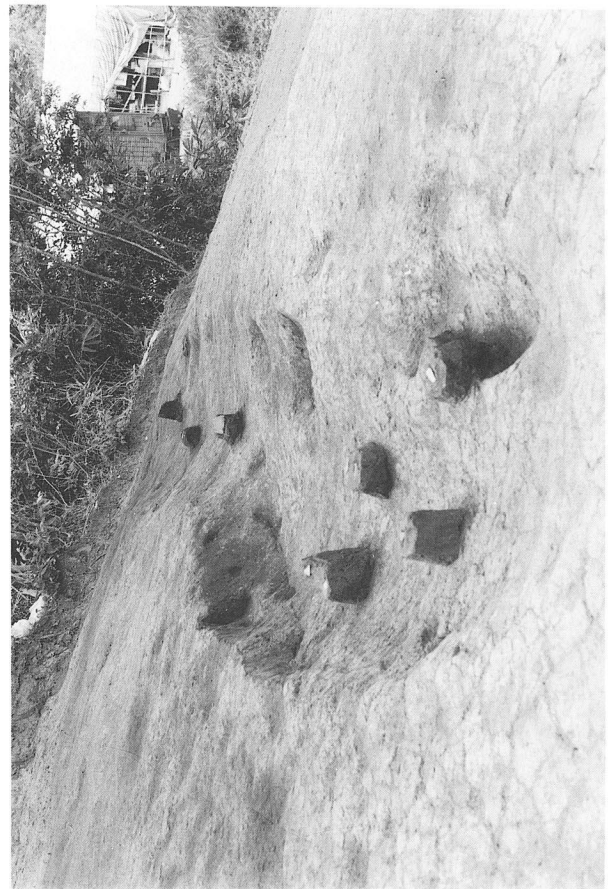
SS-1 土層断面 (北から)



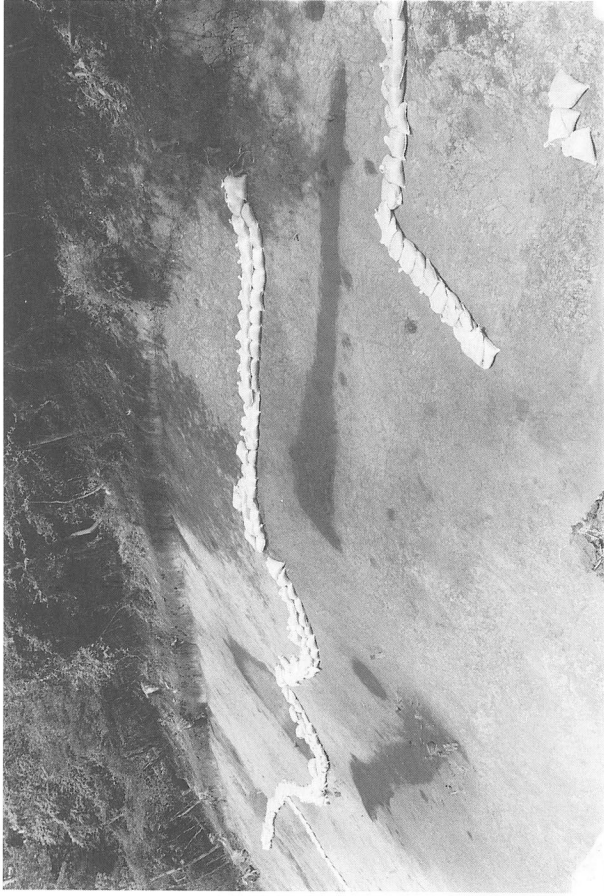
SS-1 完掘状況 (東から)



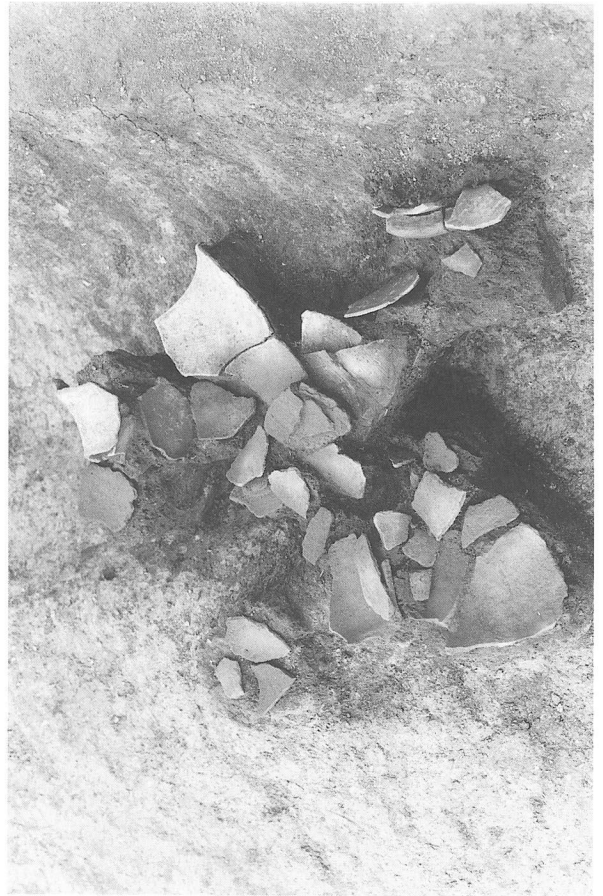
SS-1 検出状況 (東から)



SS-1 遺物出土状況 (北から)



SS-2・SS-3 検出状況 (西南から)



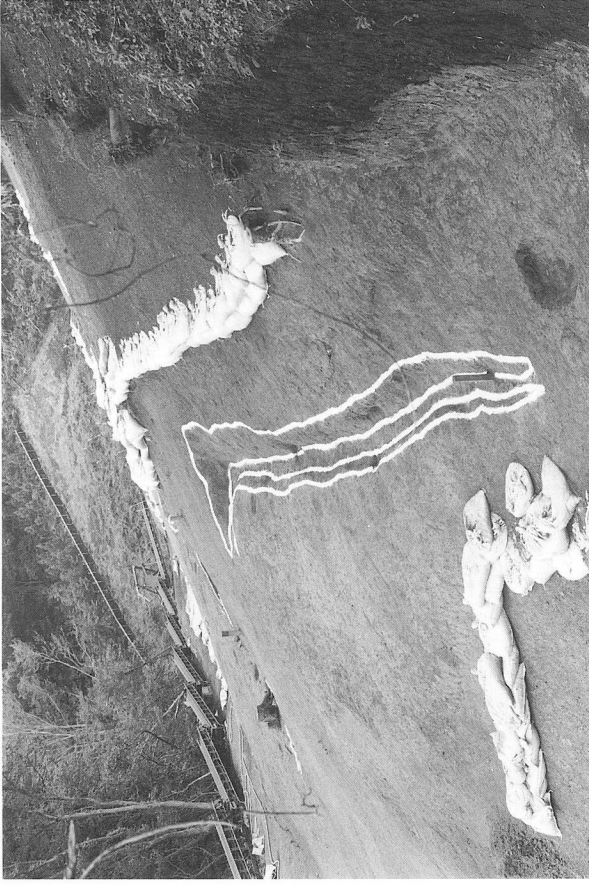
SS-2 遺物出土状況 (南から)



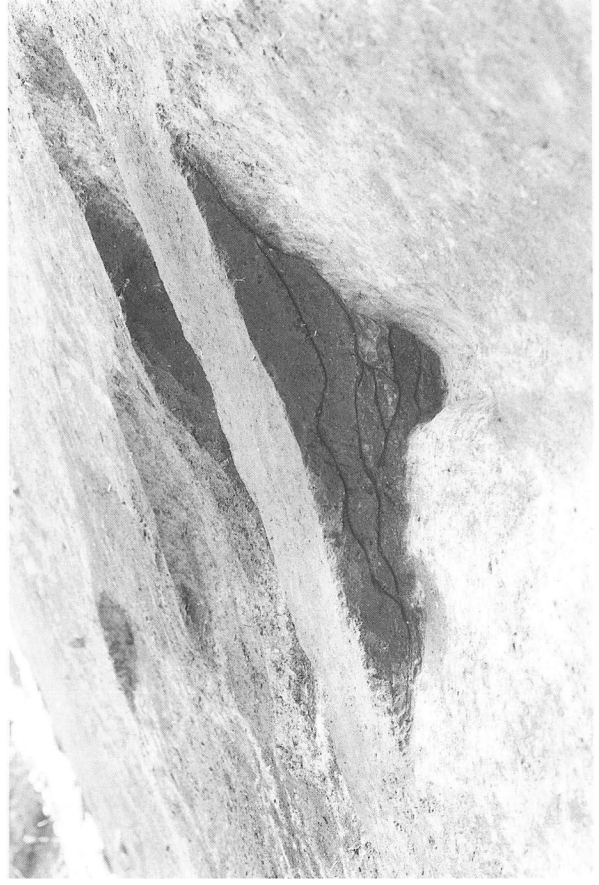
SS-2 検出状況 (西から)



SS-2 土層断面 (北から)



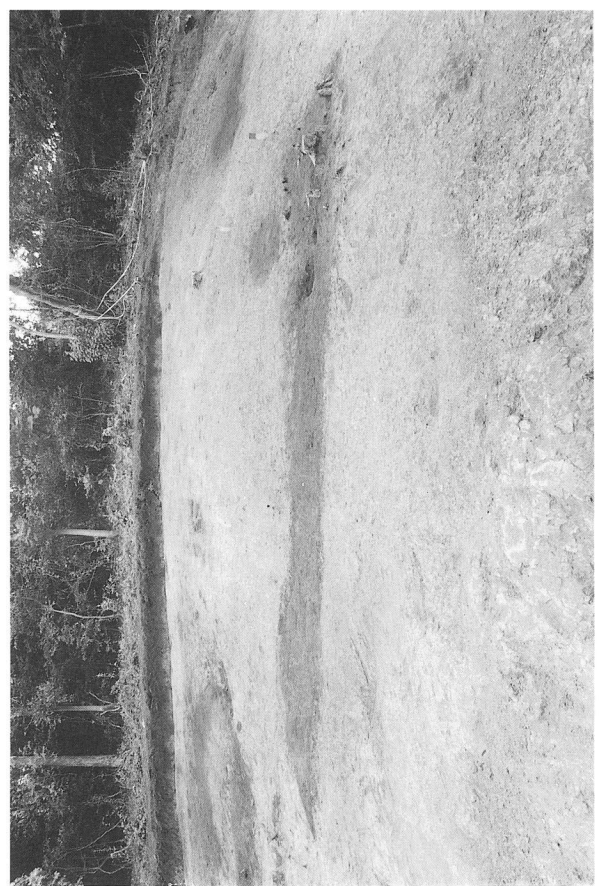
SS-2 発掘状況 (南東から)



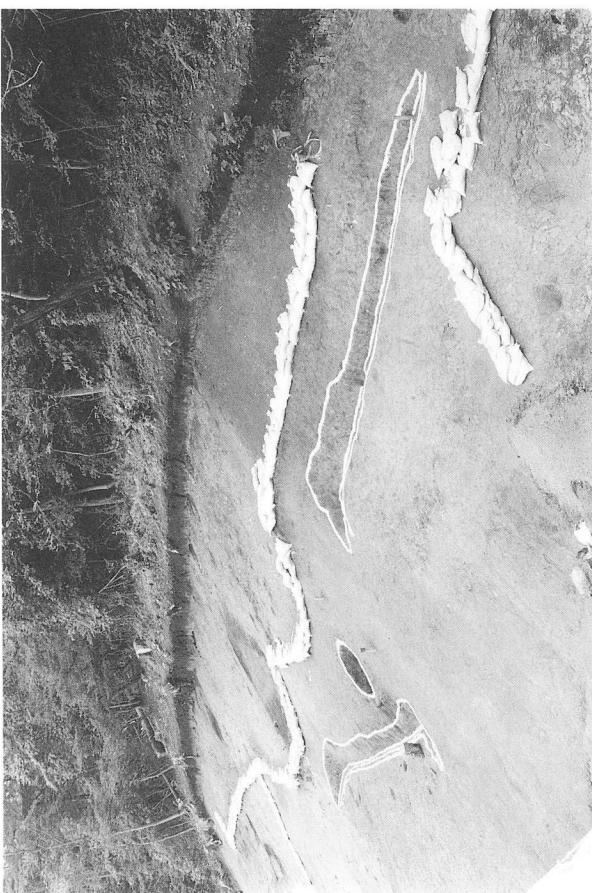
SS-3 土層断面 (南から)



SS-2 遺物出土状況 (北から)



SS-3 検出状況 (西から)



SS-2・SS-3 完掘状況 (南西から)



SS-4 C-C間土層断面 (北から)



SS-4 A-A間土層断面 (南から)



SS-4 肩沿いの溝内遺物出土状況 (南から)



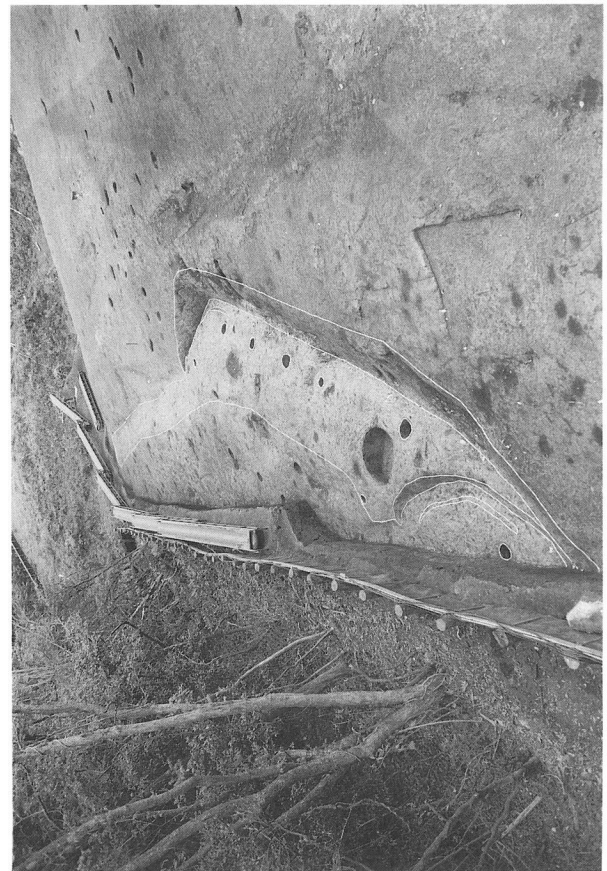
SS-4 肩沿いの溝内遺物出土状況（北から）



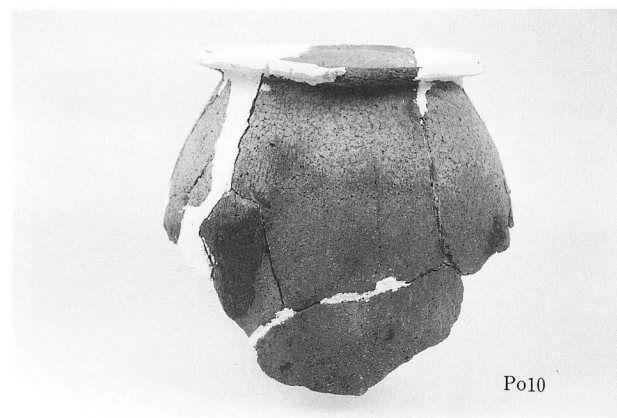
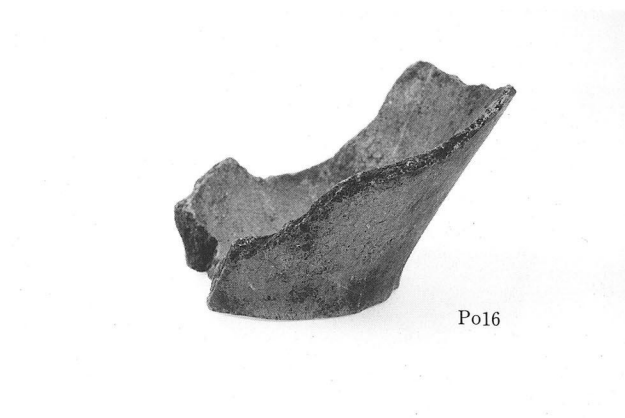
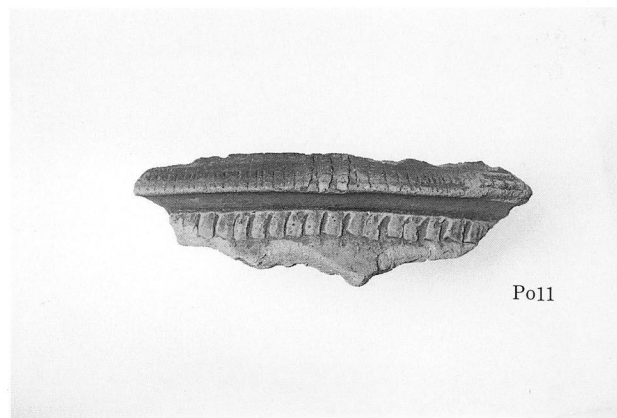
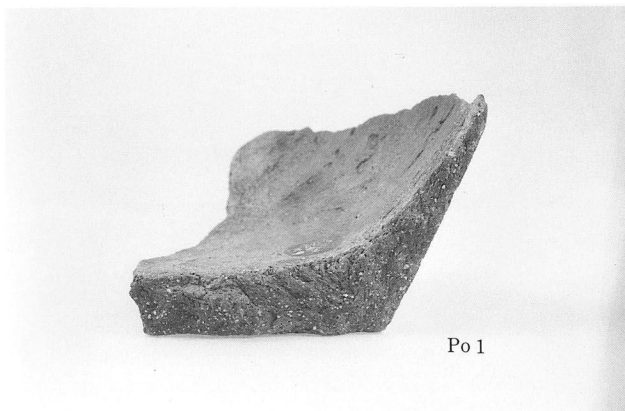
谷部完掘状況（北から）



SS-4 肩沿いの溝内遺物出土状況（北から）



SS-4 完掘状況（南から）



小町越城野原第 2 遺跡



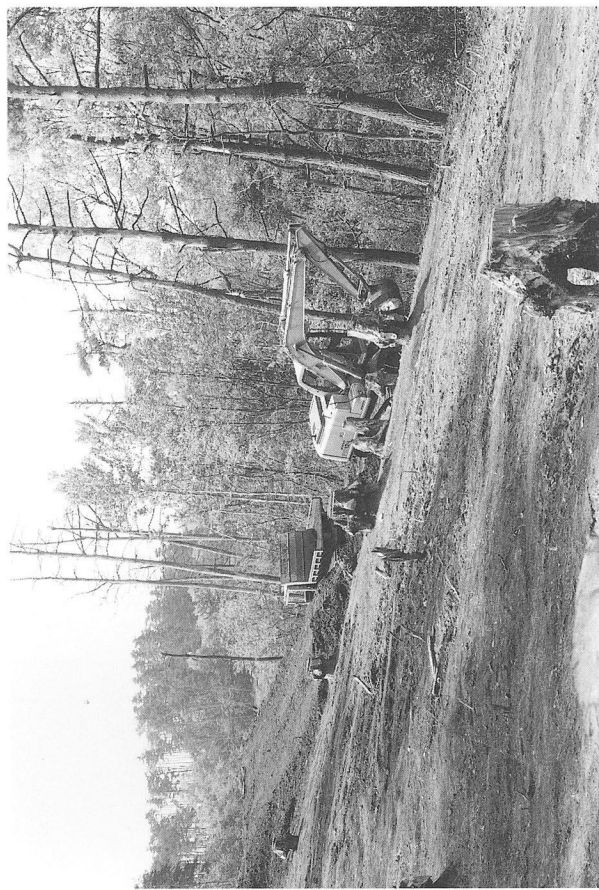
小町越城野原第2遺跡 調査前 (南から)



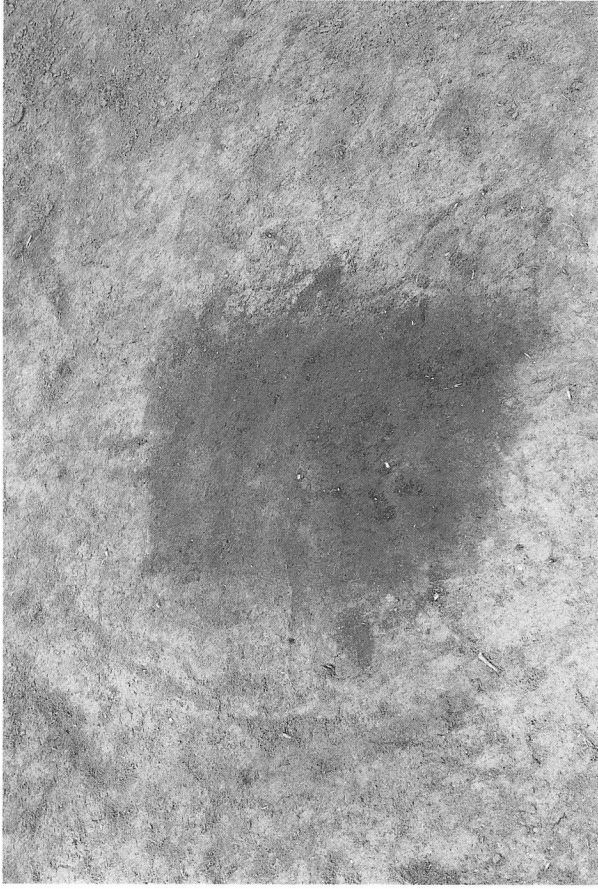
小町越城野原第2遺跡 調査前 (北から)



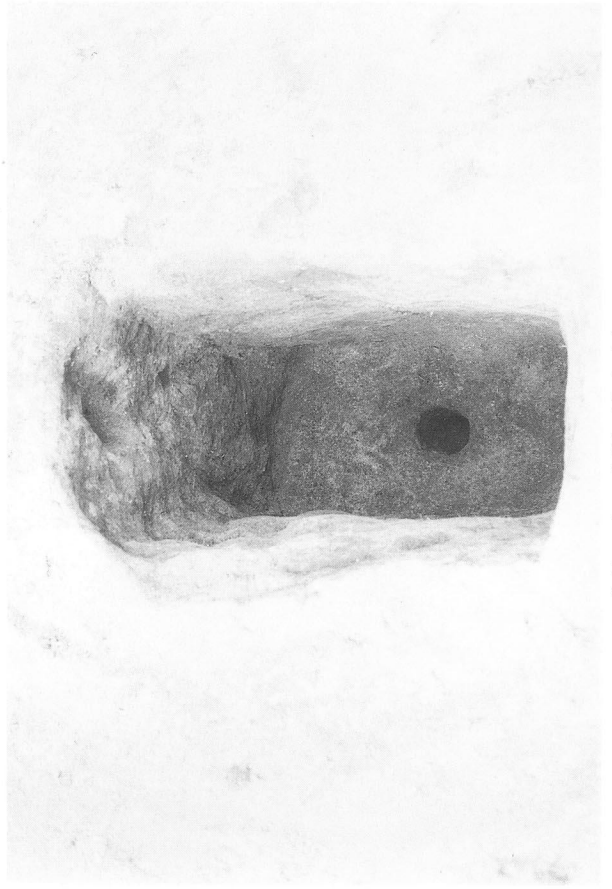
小町越城野原第2遺跡 調査前 (南東から)



小町越城野原第2遺跡 表土はぎ後 (南から)



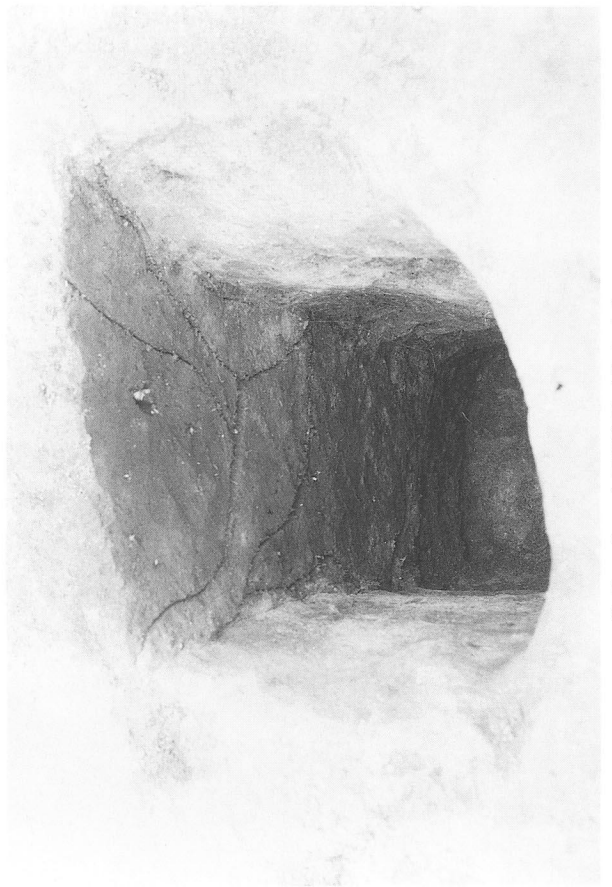
SK-1 検出状況 (北から)



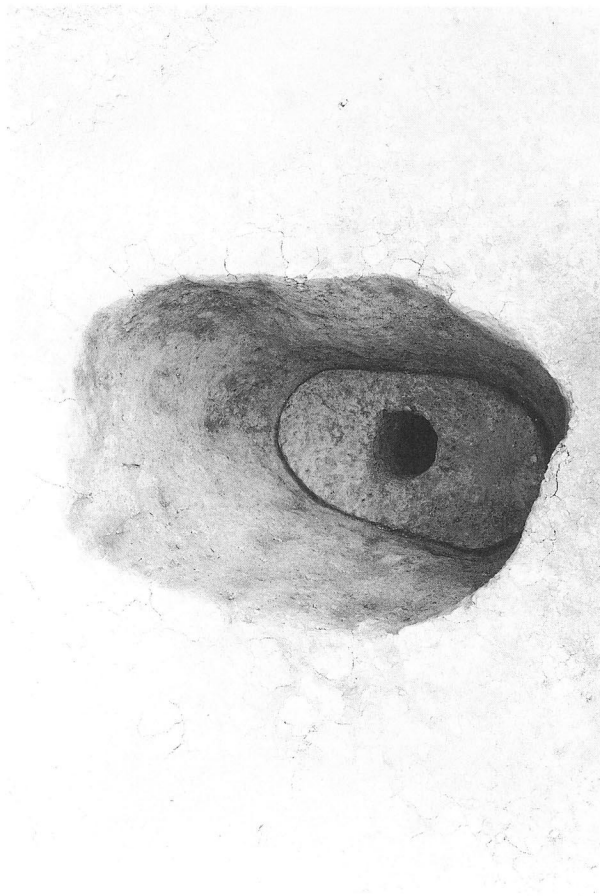
SK-1 完掘 (北から)



作業風景



SK-1 土層断面 (北から)



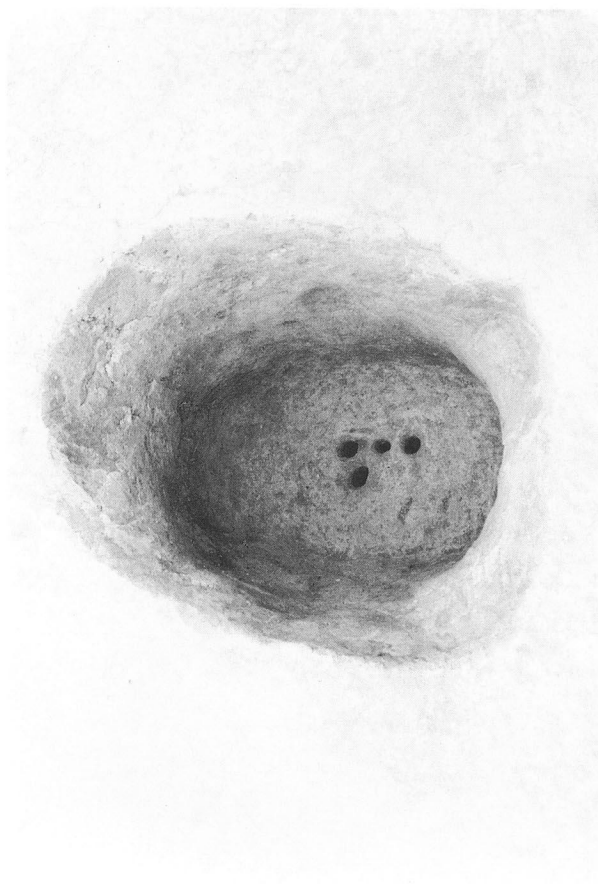
SK-3 完掘状況 (西から)



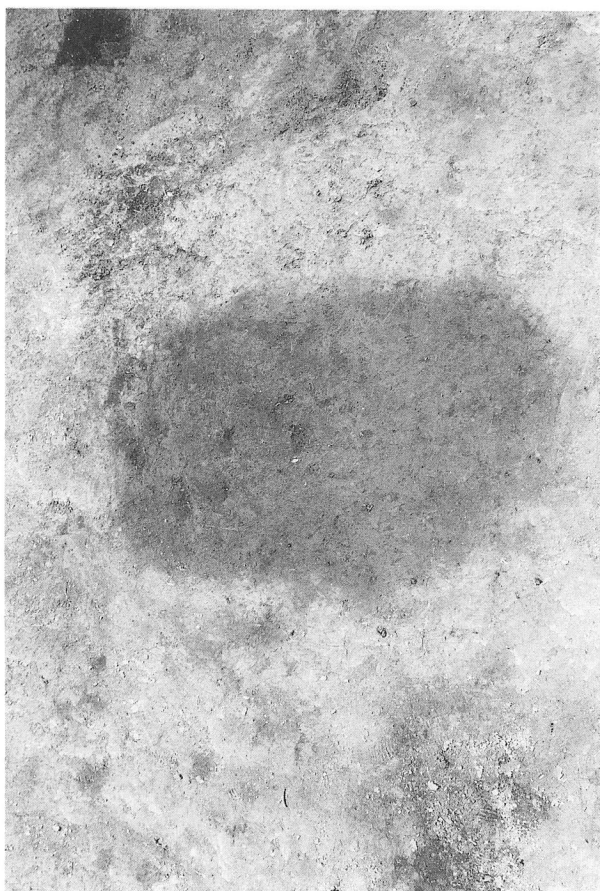
SK-8 土層断面 (西から)



SK-4 土層断面 (西から)



SK-7 完掘 (西から)



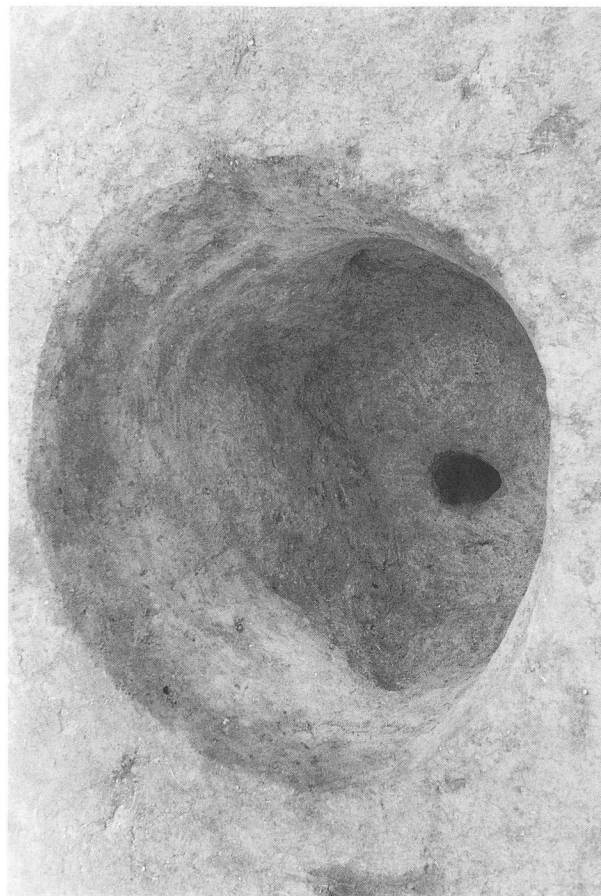
SK-12 検出状況 (南から)



SK-12 土層断面 (南から)



SK-18 土層断面 (南から)



SK-18 完掘状況 (南から)



SD-1 検出状況 (西から)



SD-1 土層断面 (南から)



SD-1 発掘状況 (西から)



S1-1 土層断面 (南から)



S1-1 発掘状況 (北から)



S1-1 検出状況 (西から)



S1-1 遺物出土状況 (北から)



小町越城野原第2遺跡 調査後



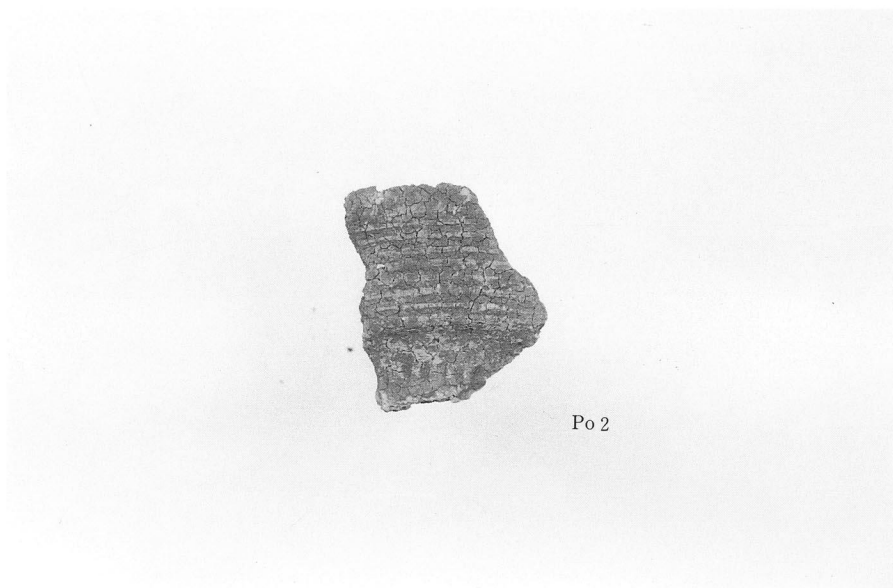
小町越城野原第2遺跡 調査後



小町越城野原第2遺跡全景（南上空から）



小町越城野原第2遺跡全景（北上空から）

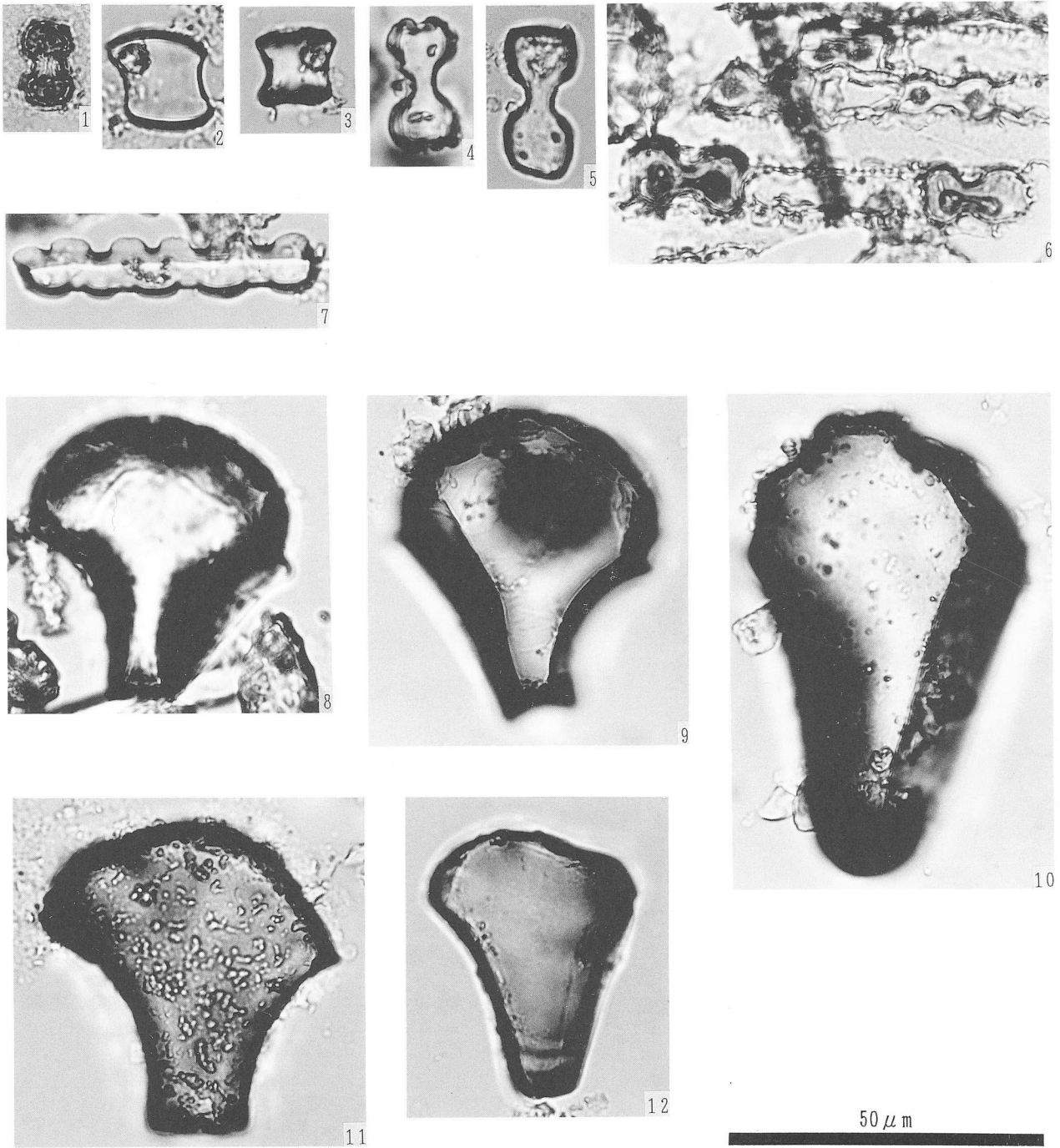




発掘作業参加者

考 察

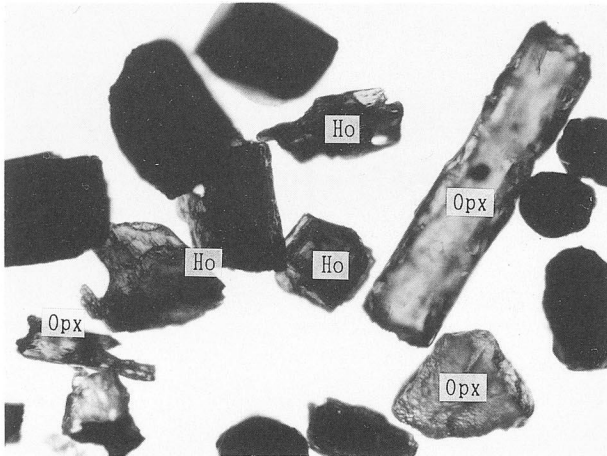
植物珪酸体



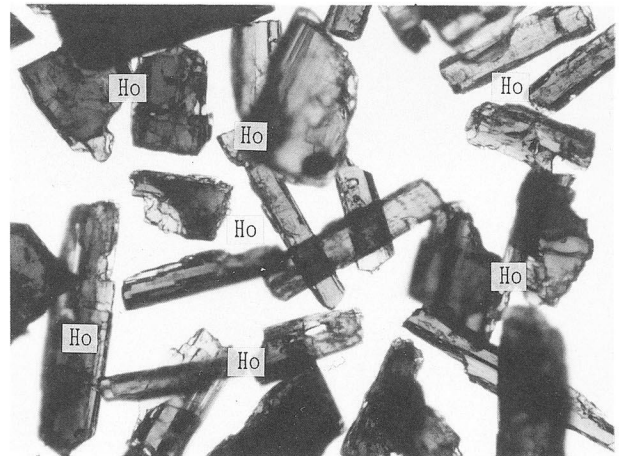
- | | |
|---------------------------------------|--|
| 1. イネ属単細胞珪酸体 (2; S I - 3・中央ピット23層) | 2. タケ亜科単細胞珪酸体 (1; S I - 3・埋積土14層) |
| 3. タケ亜科単細胞珪酸体 (11; S S - 4・埋積埋土7層) | 4. ススキ属単細胞珪酸体 (2; S I - 3・中央ピット23層) |
| 5. ススキ属単細胞珪酸体 (9; S K - 10・貯蔵穴? 1層) | 6. ススキ属単細胞珪酸列 (5; S I - 5・中央ピット6層) |
| 7. イチゴツナギ亜科単細胞珪酸体 (1; S I - 3・埋積土14層) | 8. イネ属機動細胞珪酸体 (2; S I - 3・中央ピット23層) |
| 9. イネ属機動細胞珪酸体 (5; S I - 5・中央ピット6層) | 10. ウシクサ族機動細胞珪酸体 (9; S K - 10・貯蔵穴? 1層) |
| 11. タケ亜科機動細胞珪酸体 (11; S S - 4・埋積埋土7層) | 12. ウシクサ族機動細胞珪酸体 (2; S I - 3・中央ピット23層) |

図版56

鉱物・植物珪酸体

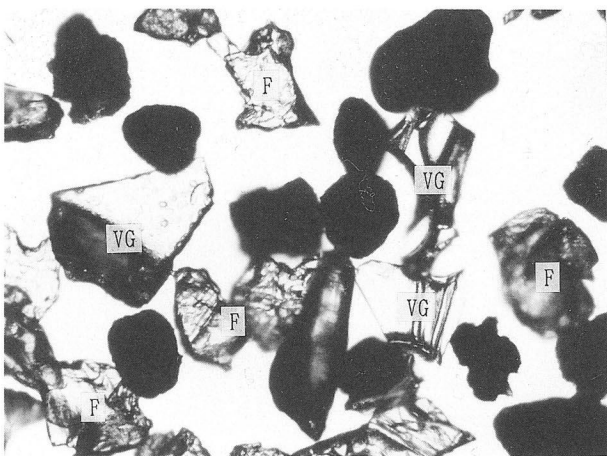


1. 重鉱物 (KK 2 ; 1)

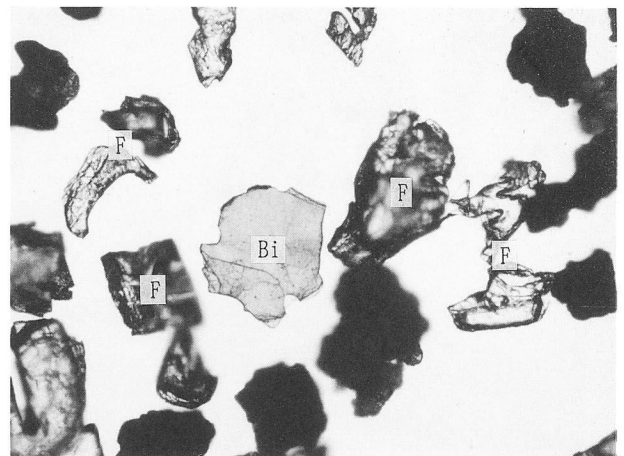


2. 重鉱物 (KK 2 ; 13)

Opx : 斜方輝石. Ho : 角閃石.



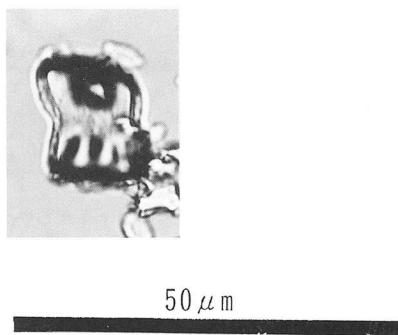
3. 軽鉱物 (KK 2 ; 1)



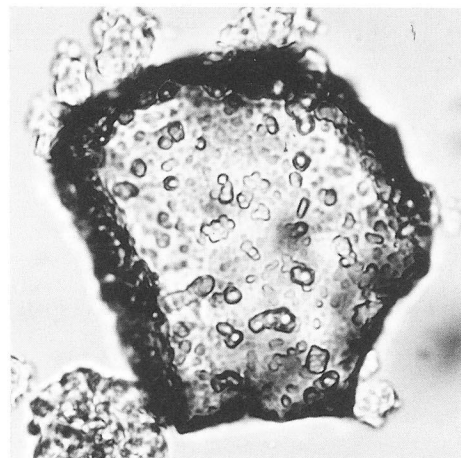
4. 軽鉱物 (KK 2 ; 13)

Bi : 黒雲母. VG : 火山ガラス. F : 長石.

0.5mm

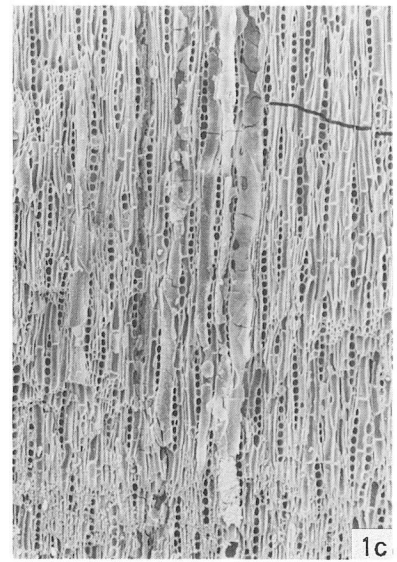
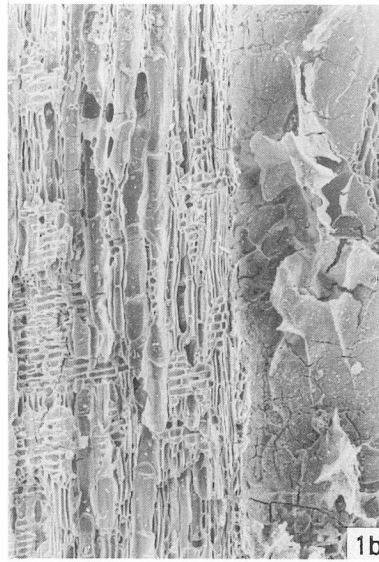
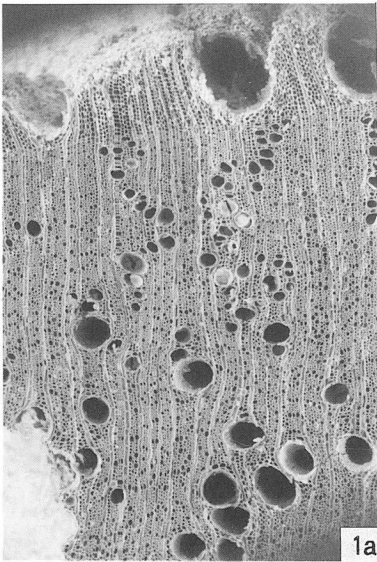


5. タケ亜科単細胞珪酸体 (SK 24 ; ③)



6. タケ亜科機動細胞珪酸体 (SK 24 ; ③)

炭化材



1. クリ (SK24) a : 木口, b : 柁目, c : 板目,

200 μ m : a
200 μ m : b, c

報告書抄録

ふりがな	さかちようみやたのかみいせき さかなかだい5いせき さかちようほとけだにいせき こまちこしきのほらだいいいせき こまちこしきのほらだいいいせき
書名	坂長宮田ノ上遺跡 坂中第5遺跡 坂長佛谷遺跡 小町越城野原第1遺跡 小町越城野原第2遺跡
副書名	県営越敷野地区ふるさと農道緊急整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	鳥取県教育文化財団調査報告書
シリーズ番号	51
編集者名	谷村憲一、山田真一、山川茂樹、鬼頭紀子、樋口友枝
編集機関	財団法人 鳥取県教育文化財団 鳥取県埋蔵文化財センター
所在地	〒680-01 鳥取県岩美郡国府町宮下1260 Tel(0857)27-6711
発行年月日	西暦1997年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
さかちようみやたのかみ 坂長宮田ノ上 遺跡	とつとりけんさいはくぐん 鳥取県西伯郡 岸本町坂長 あざみやたのかみ 字宮田ノ上	31383	1-346	35°27'18"	133°24'	19950406 } 19950719	1931.9 5768.4	県営越敷野地区ふるさと農道緊急整備事業
さかなかだい5いせき 坂中第5遺跡	とつとりけんさいはくぐん 鳥取県西伯郡 岸本町坂長 あざみやたのみね 字宮田ノ峯	31383	1-18	35°27'26"	133°24'17"	19950724 } 19951124		
ばくろうづか16ごうふん 伯楽塚16号墳		31383	1-351	35°27'26"	133°24'17"	19960613 } 19961120		
さかちようほとけだにいせき 坂長佛谷遺跡	とつとりけんさいはくぐん 鳥取県西伯郡 岸本町坂長 あざほとけだに 字佛谷	31383	1-347	35°27'42"	133°24'28"	19960401 } 19960819	3709	
こまちこしきのほら 小町越城野原 第1遺跡	とつとりけんさいはくぐん 鳥取県西伯郡 岸本町小町 あざこしきのほらのご 字越城野原ノ五	31383	1-349	35°27'58"	133°24'	19950510 } 19951110	1555	
こまちこしきのほら 小町越城野原 第2遺跡	とつとりけんさいはくぐん 鳥取県西伯郡 岸本町小町 あざこしきのほらのご 字越城野原ノ五	31383	1-348	35°28'6"	133°24'36"	19960401 } 19961024	3800	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
坂長宮田ノ上 遺跡	その他の遺跡 集落	縄文時代 弥生時代 古墳時代後期	落とし穴 17基 竪穴住居跡 1棟 溝状住居跡 2条 ピット群 1ヶ所	弥生土器 土師器・須恵器	
坂中第5遺跡	その他の遺跡 集落 その他の墓	縄文時代 弥生時代後期～ 古墳時代前期 古墳時代後期	落とし穴 9基 竪穴住居跡 9棟 墓 9基 土坑 2基 掘立柱建物跡 2棟 ピット群 1ヶ所	弥生土器・土師器 須恵器	石蓋土壇墓 木棺墓
伯楽塚16号墳	古墳	古墳時代後期		土師器・須恵器	周構内埋葬土器棺
坂長佛谷遺跡	集落	古墳時代	掘立柱建物跡 14棟 ピット群 2ヶ所	土師器・須恵器・石器	
小町越城野原 第1遺跡	その他の遺跡 集落	縄文時代 弥生時代中期	落とし穴 5基 テラス状遺構 4基 土坑 1基	弥生土器・石器	
小町越城野原 第2遺跡	その他の遺跡 集落	縄文時代 弥生時代後期	落とし穴 25基 竪穴住居跡 1棟	弥生土器	

鳥取県教育文化財団調査報告書51

県営越敷野地区ふるさと農道緊急整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

鳥取県西伯郡岸本町

坂長宮田ノ上遺跡

坂中第5遺跡

坂長佛谷遺跡

小町越城野原第1遺跡

小町越城野原第2遺跡

発行 1997年3月31日

発行者 財団法人 鳥取県教育文化財団

〒680 鳥取市東町1丁目271番地

電話 (0857) 26-8397

印刷 中央印刷株式会社